

PENTAX[®]

SF7

SF7 QUARTZ DATE

使用説明書



このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

SF7は「オートフォーカス」「内蔵オートストロボ」「マルチプログラム自動露出」「モータードライブ」などの機能を装備していますから、あらゆる撮影目的に合わせてお使いいただける高精度なシステム一眼レフカメラです。

また、SF7クォーツデイトはオートカレンダー機能を持ち、撮影した「年月日」または「時間」を同時に写し込むことができるカメラです。

この説明書は、SF7およびSF7クォーツデイト用です。ご使用前に使用説明書の関係部分をよくお読みのうえ正しくお使いください。



各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて、各ページを読みながらご覧いただくことができます。

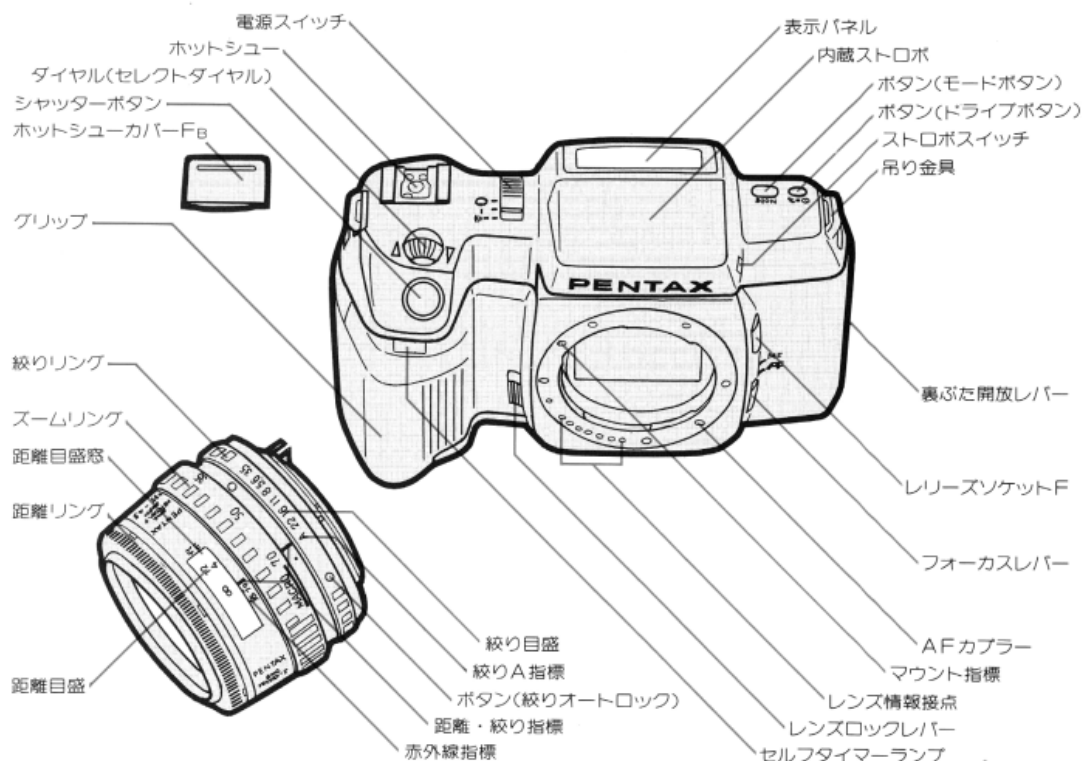


●SF7 Fズーム35～70mm F3.5～F4.5付



●SF7 クォーツデイト

各部の名称



表示パネルの表示ガイド	2	シャッター優先自動露出の使い方	38~39
ファインダー内の表示ガイド	3	絞り優先自動露出の使い方	40~41
準備編	5~11	マニュアル露出の使い方	42~43
ストラップを取り付けます	5	bulb [バルブ]	44
電池を入れます	6~7	オートフォーカスの苦手な被写体	45
レンズを取り付けます	8~9	MF [マニュアルフォーカス] でのピントの合わせ方	46
クォーツテートの日付け表示や 時間表示を選びます	10~11	マツト部分でのピント合わせが必要なとき	47
基本撮影編	12~33	ML [メモリーロック] の使い方	48~49
電源スイッチを操作します	13	セルフタイマーの使い方	50~51
シャッターボタンを操作します	13	アイカップ F _B	51
プログラム自動露出に合わせます	14~15	ペンタックス・専用オートストロボの使い方	52~55
1コマ撮影にします	16	TTL オート・外光オートストロボの使い方	54~55
AF [オートフォーカス] に合わせます	16	被写界深度	56~57
カメラの構え方・カメラぶれの防ぎ方	17	赤外線指標の使い方	57
ピントを合わせます	18~19	クォーツテートのデータ修正	58~59
フォーカスロック撮影を覚えましょう	20	クォーツテート用電池の交換	60
ズームレンズを操作します	21	電池について	61
DX フィルムを入れます	22~24	ファインダー内の露出警告表示	62
撮影をします	25	SF7 と各種ペンタックスレンズ 組み合わせたときの機能	63
フィルムを巻き戻し、取り出します	26~27	ソフトケース	64
内蔵ストロボで撮影します	28~33	アクセサリ	65
AF スポットビームを使います	33	取り扱い上の注意	66~67
いろいろな機能の操作編	34~63	仕様	68~69
SMC PENTAX-F (F レンズ) と SF7 での「露出方式」の組み合わせ	35~37	こんなときは?	70~71
露出方式の選び方	36~37	お問い合わせは次ぎの各サービス窓口へ	72~73
		アフターサービスについて	75

表示パネルの表示ガイド



2000 — 手動で合わせられたシャッター速度で、2000は 1/2000秒・1は1秒です。

🔋 — 電池が消耗しています。

36 — 撮影枚数の表示で、[1][36]のように表示されます。セルフタイマーの表示は「□」が出ません。

🔊 — このダイヤルを動かしてください。

AUTO — レンズの絞りが「A」に合わされています。

🔍 — レンズの絞りは、手動絞りに合わされています。

🔦 — ストロボの情報を知らせます。

PARUOTGO.

PROG. — 「プログラム自動露出」に合わされています。

AUTO — 「絞り優先自動露出」に合わされています。

🔍 — フィルムの状態を知らせます。

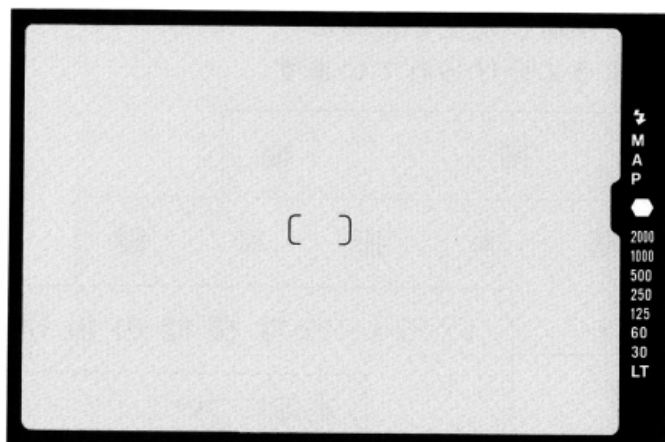
AF — 「オートフォーカス」に合わされています。

MF — 「手動ピント合わせ」に合わされています。

🕒 — 「セルフタイマー撮影」に合わされています。

📷 — 「連続撮影」に合わされています。

■ — 「1コマ撮影」に合わされています。



[] —— ビントを合わせる所です。

⚡ —— ストロボの情報を知らせます。

M —— 「マニュアル露出」に合わされています。

A —— 「シャッター優先自動露出」「絞り優先自動露出」に合わされています。

P —— 「プログラム自動露出」に合わされています。

○ —— ビントの情報を知らせます。

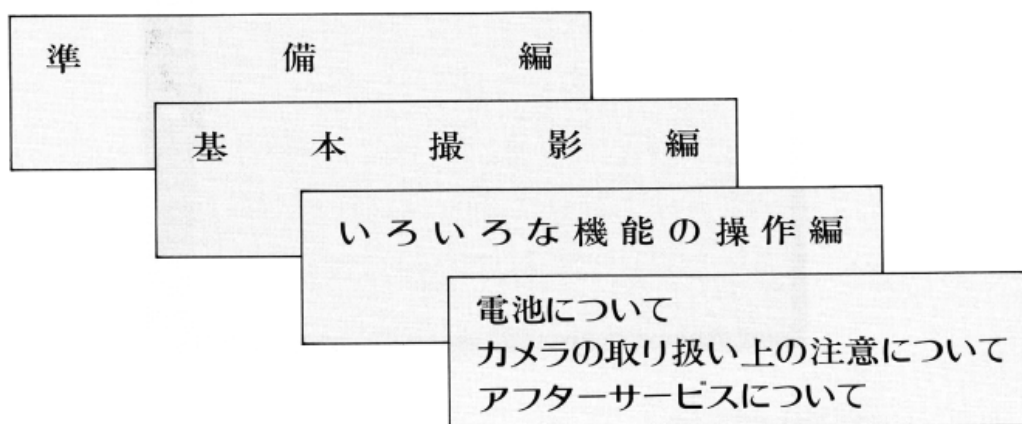
2000
1000
500
250
125
60
—— シャッター速度で、2000は1/2000秒・60は1/60秒です。

30 —— 手ぶれ注意のシャッター速度です。

LT —— 1/15以下の低速になっています。

3●

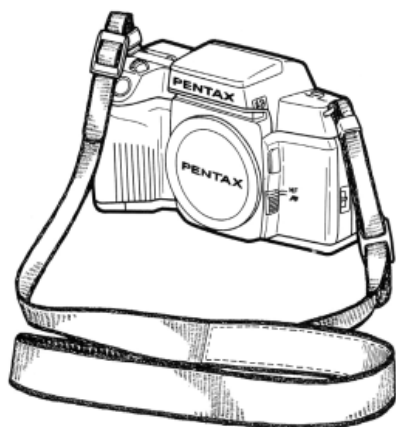
説明書を効果的にご使用いただくために
この説明書は次のように分けられています。



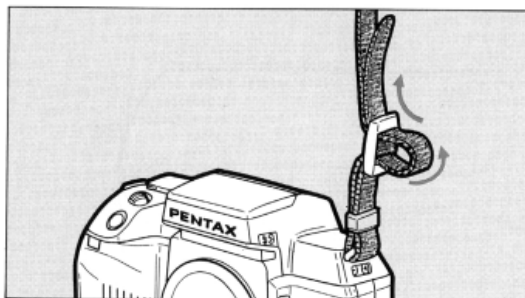
●一眼レフは初めてなので、とにかくSF7がどのようなカメラかを操作してみたい、という方は、「準備編」と「基本撮影編」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

●「電池について」「カメラの取り扱い上の注意について」「アフターサービスについて」は必ずお読みください。

準備編



1. ストラップを取り付けます

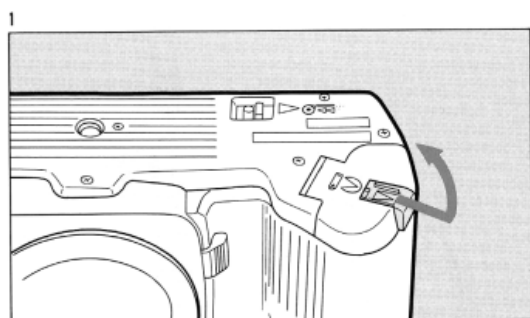


図のように、ストラップを取り付けます。

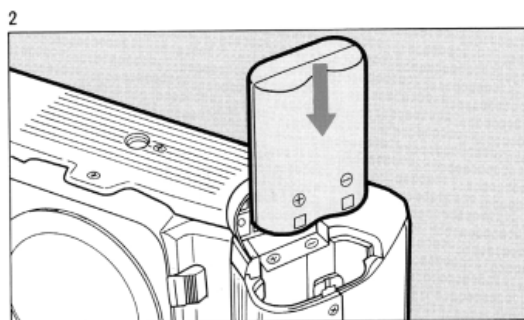
* 歩行中にカメラが揺れにくいように、腰より上に来る長さに調節すると良いでしょう。

5●

2. 電池を入れます



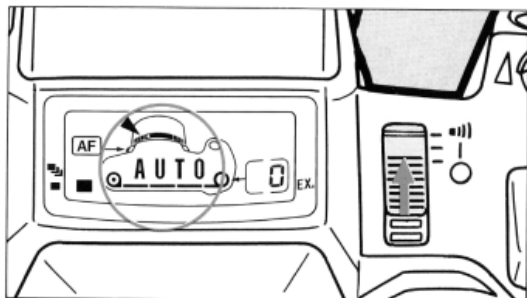
1. 図のように、電池ふたのレバーを  の方向に引き、ふたを開けます。



2. 電池の金属接点側を下にして電池を入れ、開けたときは逆の手順でふたを閉じます。

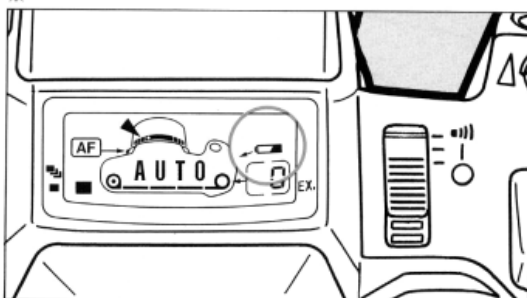
● **注** SF7は電池で動きますから、操作をする前には必ず決められたリチウム電池 **2CR5** を1個入れます。SF7には、サンプル用に電池が添付されていますので、この電池でお試ください。

3



3. スイッチを  にし、図のように **AUTO** の表示が出ることを確認します。

※



※電池が消耗したとき

図のように、 が表示されたら電池が減っていますから早目に交換します。

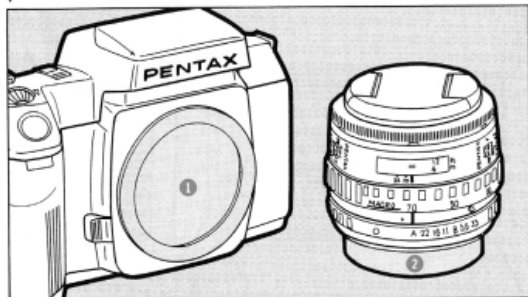
 の点滅が始まると、シャッターも切れなくなります。

- 電池を上下逆にに入れても表示が出る場合がありますが、シャッターは切れません。必ず電池は正しい方向に入れてください。

7●

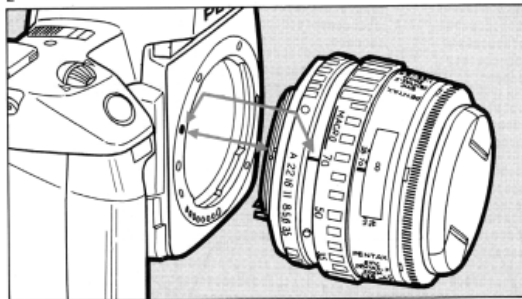
3. レンズを取り付けます

1



1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。

2

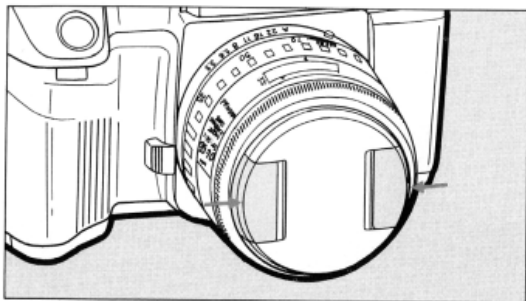


2. SF7とレンズの赤点指標を合わせて、レンズをSF7のマウントにはめ込み、図のように、レンズを右〔時計回り〕に回して、「カチッ」という音がしたら、取り付け完了です。

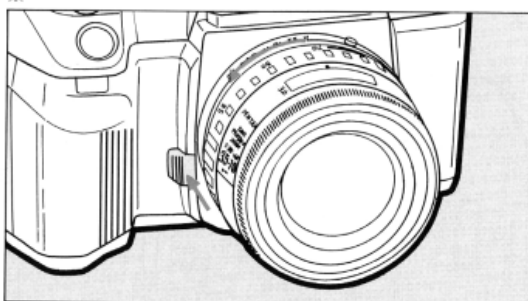
*ボディカバーは工場出荷時のキズよけやホコリよけ用のものです。

保管用には別売りの「ボディマウントキャップK」をご利用ください。

●8



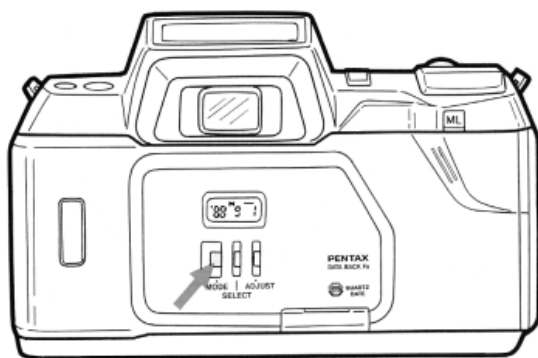
3. レンズの前キャップを図のように、両側の矢印部分を押し外します。



- ※ レンズを外すときは、図のようにレバーを押し込み、レンズを取り付け時とは逆に回して外します。

- ④ ボディーやレンズのマウント面にレンズ情報接点やA Fカプラーがあります。キズを付けたり、汚したりしないでください。汚れたときは、清潔な乾いた布で拭いてください。

4. クォーツデートの日付け表示や時間表示を選びます



図のように、矢印のボタンを押して、日付けか時間を選びます。

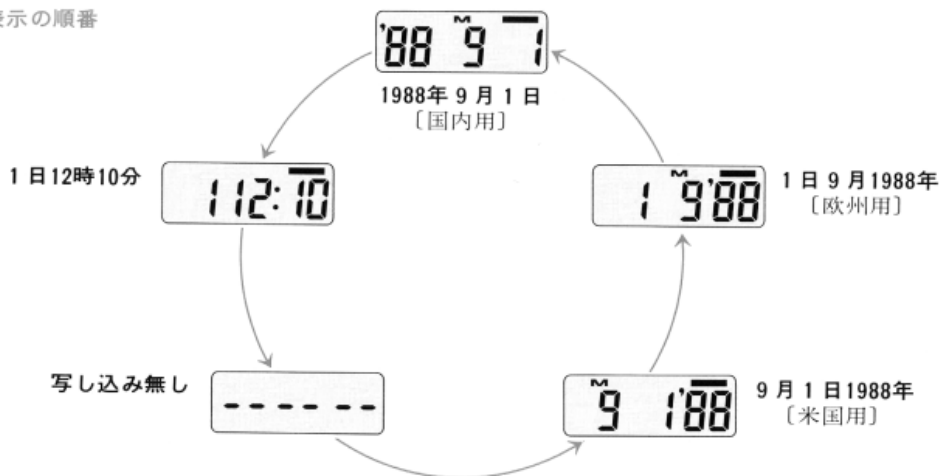
M は「月」の位置を表しています。

— はシャッターを切ると点滅を続けて、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。



※この写真の数字はハメコミ合成です。

- * 表示は撮影のたびに写し込まれます。
- * **.....** にすると何も写し込まれません。
- * 日付けは国によって表示方法が違いますので、3種類用意されています。



●注 データの写る部分に白や黄色の物が来ると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

* このクォーツデイトは、工場出荷時に、おおむね正しい時間に合わせていますが、調整や電池を交換するときは58～60ページをご覧ください。

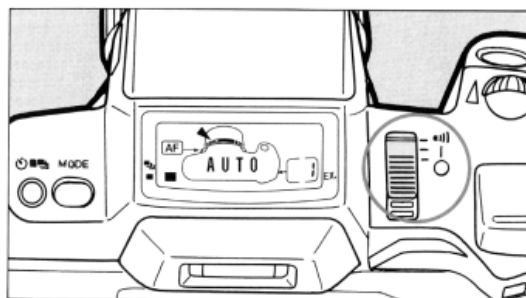
* 2019年までのカレンダーが記憶されています。

これで準備はおしまいです。⇒

基本撮影編



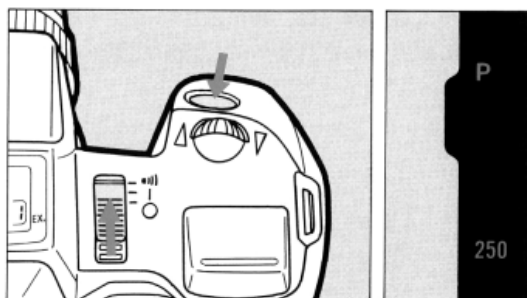
1. 電源スイッチを操作します



- 「入」 —  [ピントが合ったときやセルフタイマーを使ったときに「ピッピッ」と電子音で知らせます。]
- 「切」 —  [使わないときは、必ずこの位置にします。]

[文中では、電源スイッチをスイッチと略します。]

2. シャッターボタンを操作します



スイッチを  にし、図のようにシャッターボタンを軽く押している間は、ファインダー内に露出計などの情報が表示され、さらに押し込むとシャッターが切れます。

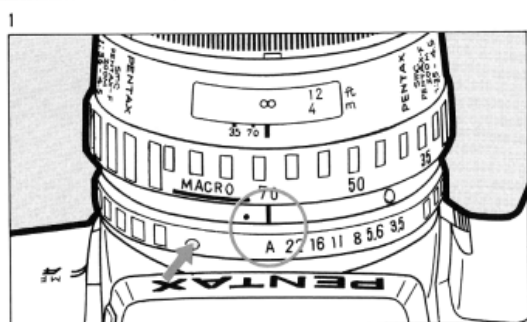
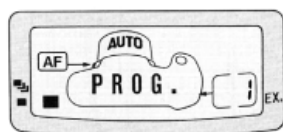
* 指を離すと、約 5 秒後に表示が消えます。

* レンズキャップは必ず外して、明るい方向に向けてシャッターを切ってください。

13 ●

3. プログラム自動露出に合わせます

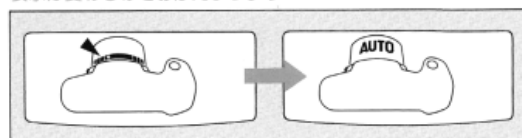
プログラム自動露出は、絞りとシャッター速度が自動的に組み合わせられるので、撮影が簡単に楽しめます。



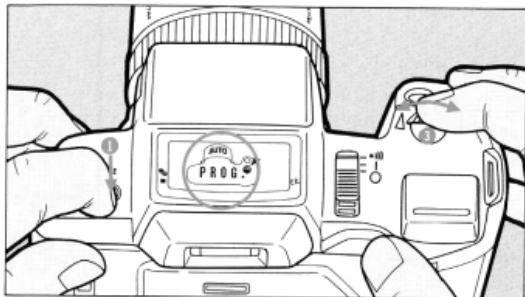
1. 図のように、レンズのボタンを押したまま、絞りリングを **A** にします。

* **A** にすると、絞りリングが固定されます。

表示が変わるのをおぼえましょう

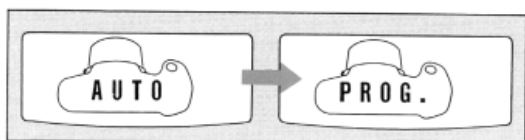


2

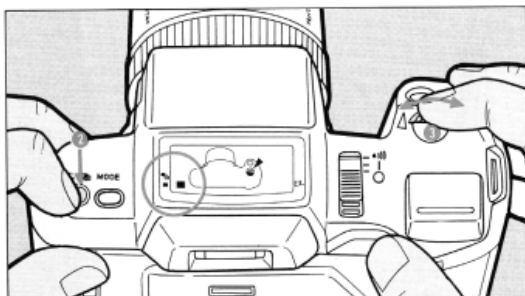


2. 図のように、①の灰色の **PROG.** ボタンを押したまま、③の **MODE** ダイヤルを右か左に一回づつ動かして **P R O G .** の表示を出します。

* **MODE** ダイヤルは右か左に押したままにすると早送りします。



4. **1コマ撮影** にします



図のように、②の **1/2** ボタンを押したまま、③の **MODE** ダイヤルを動かして **1/2** 表示にします。

1/2 1コマ撮影

〔シャッターボタンを押すたびに、1コマずつ撮影されます。〕

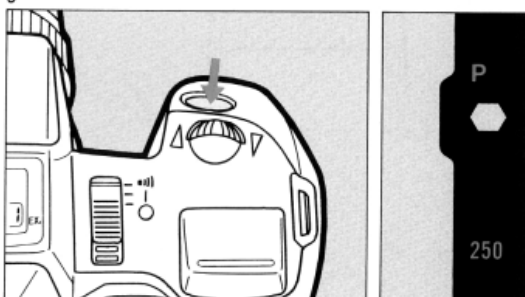
1/2 連続撮影

〔シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。〕

1/2 セルフタイマー撮影 [50ページ]

〔シャッターボタンを押すと、タイマーが働き約12秒後に撮影されます。〕

3



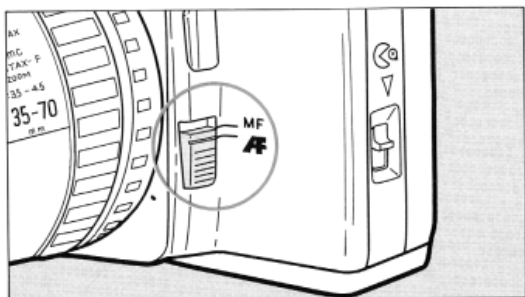
3. ファインダーをのぞきながら、シャッターボタンを軽く押し、ファインダー内の右上に **P** とシャッター速度の表示が出ることを確認します。

* 緑色の2000～60[1/2000～1/60秒]のランプが光っていれば撮影できます。30～LT[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。

* **1/2** が点滅しているときは、内蔵ストロボ [28ページ] を使用します。

15●

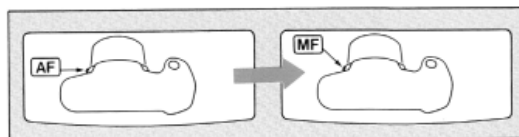
5. **AF** [オートフォーカス] に合わせます



図のように、レバーを赤色の **AF** 側にします。

AF [レンズが自動的に動いて、ピントを合わせる「オートフォーカス」です。]

MF [手動でピントを合わせる「マニュアルフォーカス」です。46ページ]



6. カメラの構え方・カメラぶれの防ぎ方

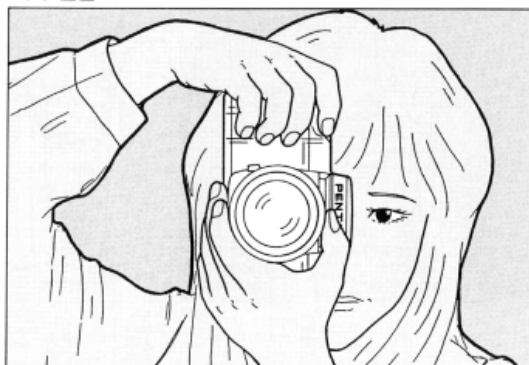
●横位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは息を止めて指先で静かに押します。〔強く押すとカメラぶれしやすくなります。〕
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させる方法などを利用します。

●タテ位置

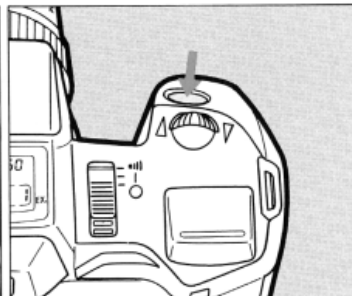


- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは三脚と、別売りの「ケーブルスイッチF」をご利用ください。
- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

17●

7. ピントを合わせます

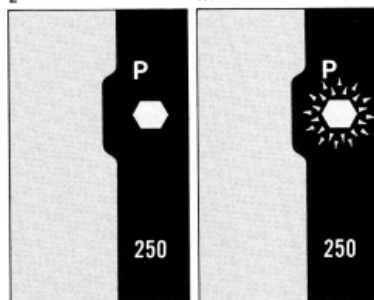
1



1. 写真のように、AFフレーム  の所にピンポイントを合わせたい物を持ってきて、シャッターボタンを軽く押します。

2

※

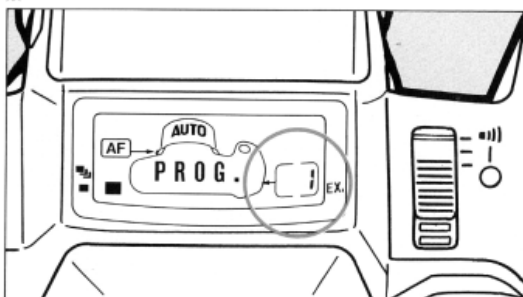


2. ピントが合うと、図のようにファインダーの中の  が緑色に光って、「ピッピッ」という電子音が聞こえます。
- ※  が点滅を続けているときは、撮影する距離が近すぎたり、「オートフォーカスの苦手な被写体[45ページ]」でピント合わせができないときです。



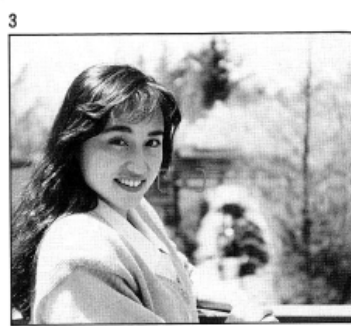
3. さらにシャッターボタンを押し込むと撮影ができます。

- 注 ピントが合わないとシャッターは切れません。
- 注 作動中はレンズの距離リングに手をかけたり、回転を妨げたりしないでください。
- 注 一度合うとピントが固定されますから、別のものに合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離し、押し直します。



※ 図のように、「EX.」のところに表示される数字は撮影枚数で、シャッターを切るごとに枚数が足されます。

8. フォーカスロック撮影を覚えましょう

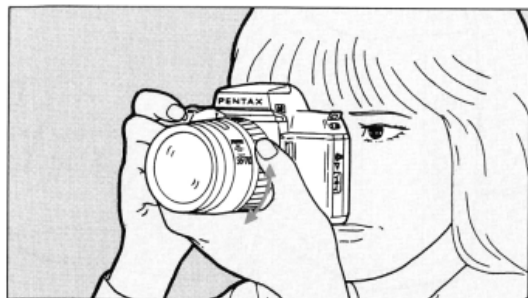


構図上、ピントを合わせたいものから「**[]**」が外れているときは、次のようにフォーカスロック撮影をします。

＊シャッターボタンを軽く押し、「**[]**」が光っている間はフォーカスロックされ、指を離すと解除します。何回でも繰り返すことができます。

1. 「**[]**」が外れたままで撮影をすると、写真のように後ろの方にピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたい物に「**[]**」を向けて、シャッターボタンを軽く押し続け、「**[]**」を光らせたままにしておきます。〔ピントを記憶させる操作です。〕
3. シャッターボタンを軽く押し続け、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影をします。

9. ズームレンズを操作します



ズームリングを回すと、写したいものが大きくなったり、小さくなったりしますから、好みの位置に合わせます。

*ズームリングの数字が小さいときは、写る範囲が広い広角側に、大きいときは遠いものを大きく写す望遠側になります。

●広角〔35mm〕

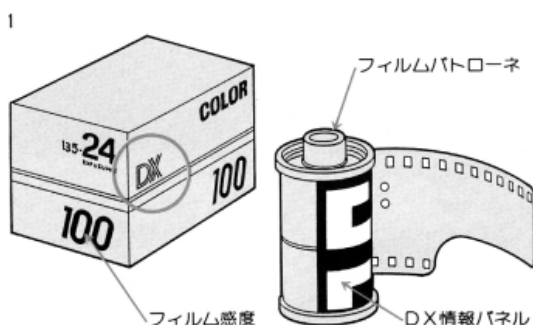


●望遠〔70mm〕



21●

10. **DX** フィルムを入れます

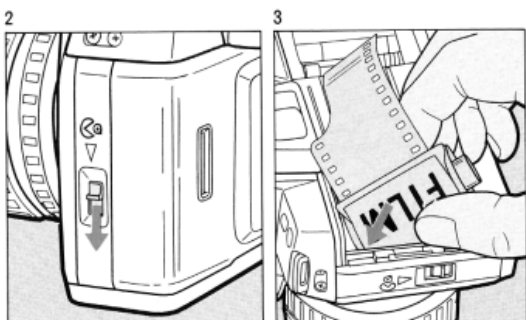


1. 図のように、**DX** マークの付いているフィルムを用意します。

〔S F 7はISO 25～5000まで使えます。〕

* **DX** フィルムは、感度が自動的にカメラにセットされるフィルムです。

* **DX** 以外のフィルムは「ISO 100」になります。

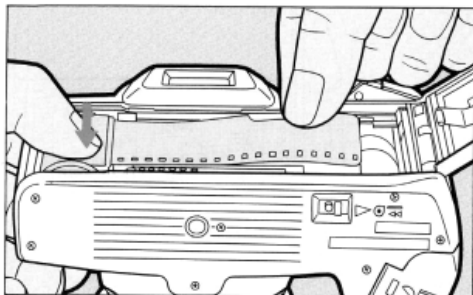


2. 図のレバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

3. 図のように、パトローネの凸部側を下にして、上側から先に入れます。

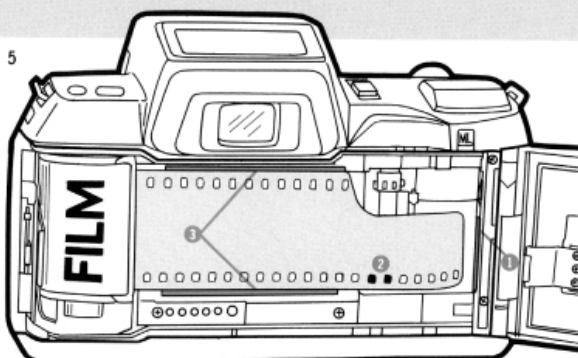
④ 初めてカメラにフィルムを入れるときは、裏ぶたを開き、内側にある防傷カバーを取り外して捨ててください。

4



4. 図のように、左手でパトローネを押さえながらフィルムを引き出します。

5



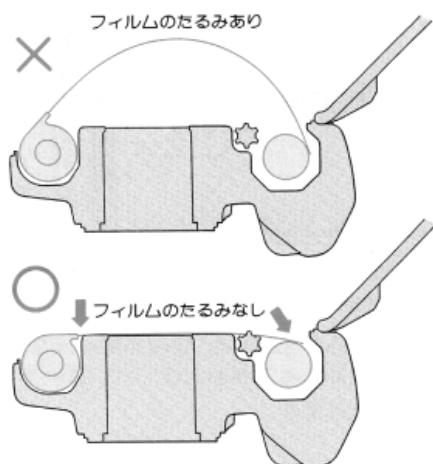
5. 図のように、フィルムの先端部を「①の先端マーク」に合わせ、フィルムにたるみがあれば、パトローネに戻してたるみをとります。

注 シャッター幕は精度を出すために、非常に薄い幕でできています。手やフィルムの先端部などが絶対に触れないように注意してください。

注 D X の情報ピンは、フィルム感度を読み取る接点です。キズ・汚れ・ゴミを付けないようにしてください。

注 フィルムの穴〔パーフォレーション〕を②の歯に合わせ、③のガイドレール〔赤線〕の間にフィルムが入っていることを確認してください。

23●



* フィルムはたるみがないように入れてください。

* フィルムは先端が極端に折れ曲っているものは、まっすぐに直すか、曲った部分を切り取ります。

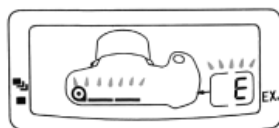
6



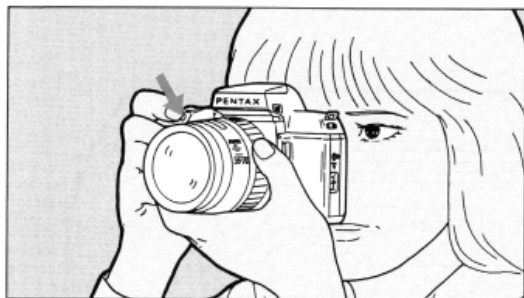
6. 裏ぶたを閉めると、自動的に1枚目まで巻き上げられますから、[1]が表示されることを確認します。

注  マークが出ていることを確認します。

注  と [E] が点滅しているときは、フィルムが正しく入っていないので、フィルムを入れ直します。



11. 撮影をします

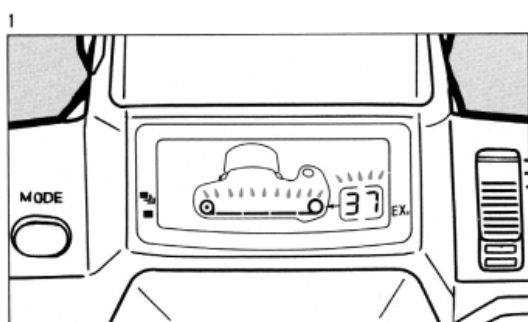


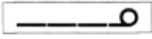
シャッターボタンを静かに押し込んで、撮影をします。撮影をすると、1コマずつ自動的に巻き上げられます。

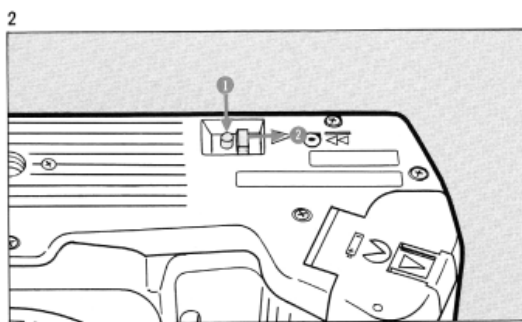


25 ●

12. フィルムを巻き戻し、取り出します

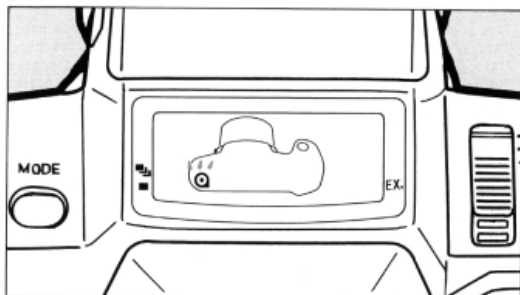


1. フィルムの最後まで撮ると、 と **EX.** の撮影枚数の表示が点滅を続けます。



2. 図のように、①のボタンを押したまま、②のレバーを  側の  マークの方に「カチッ」と止まるまで動かすとフィルムが巻き戻されます。〔撮影枚数の表示も減っていきます。〕

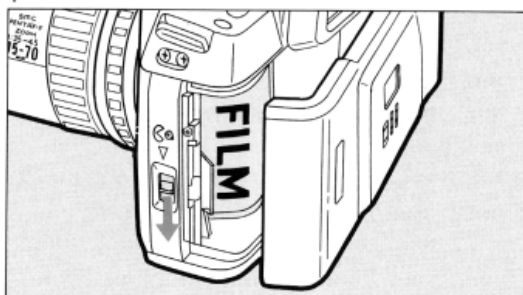
3



3. 巻き戻しが終了すると  が点滅し、**EX.** の撮影枚数の表示が消えます。

* 巻き戻しは、24枚撮りフィルムで約20秒です。

4



4. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。
カメラを使わないときは、スイッチを必ず  にして電源を切っておきます。

- 注 フィルム巻き戻し終了の  マーク点滅を確認してから裏ぶたを開けてください。
- 注 フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。

27 ●

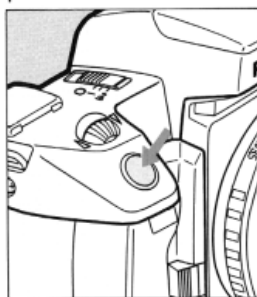
13. 内蔵ストロボで撮影します

1. プログラムストロボで使います

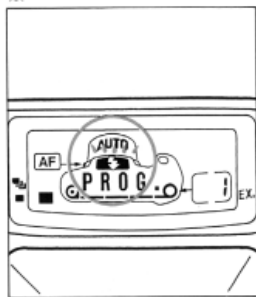
プログラムストロボは、周りが暗いときや逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に組み合わされ、簡単にストロボ撮影ができます。

使用できるレンズは、接写撮影用のマクロレンズを除く、35mmから210mmまでのレンズです。

1



※

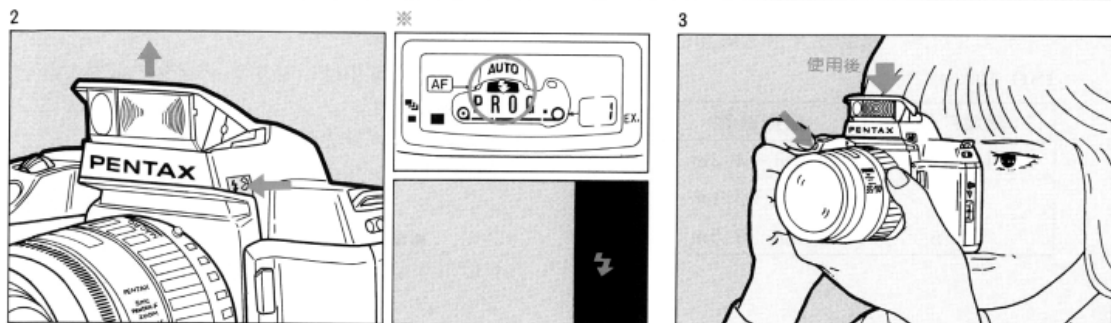


1. プログラム自動露出にし、シャッターボタンを軽く押します。

※周りが暗いときや逆光のときは  が点滅し、ファインダー内にも  が点滅しますので、ストロボをご使用ください。[ と  は、ストロボをお使いになることを S F 7 がお勧めする「ストロボお勧め表示」です。]

* シャッター優先自動露出 [38ページ] でもプログラムストロボが使え、逆光のときは  と  で「ストロボお勧め表示」が点滅します。





2. シャッターボタンから指を離し、黄色の  ボタンを押して、ストロボを上飛び出させます。

※充電が自動的に始まり、充電が終わると、 が表示されます。また、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内にも  が光ります。
[充電時間は約4秒です。]

3. さらにシャッターボタンを押して、ストロボ撮影をします。

④撮影が終わったときや撮影をしないときは電池を無駄にしないように、必ずストロボを収納してください。

29 ●

プログラムストロボで撮影ができる範囲の目安
ISO 100 のとき

開放F値	撮影範囲
F1.4～2.8	0.9m～4.3m
F3.5	0.7m～3.4m
F4.5	0.7m～2.6m

④ストロボが使える距離〔フィルムの位置から撮影したいものまでの距離〕は、上表のように、ご使用のレンズの開放絞り値〔開放F値〕により変化しますからご注意ください。

【参考】開放F値の読み方

ご使用レンズを見て、例えば「smc PENTAX-F ZOOM 1:3.5-4.5 35-70」となっていたら、35mmのときF3.5で70mmのときにはF4.5の開放F値を持ったレンズということを表しています。

ご使用上の注意

- ①ストロボ充電中は、必ずシャッターボタンから指を離します。
- ②内蔵ストロボ発光禁止警告について
下記のFレンズのときは、充電が完了してから、シャッターボタンを軽く押すと、安全機構が働いて、やファインダー内に  が点滅し、ストロボが使えないことを警告します。
シャッターを切ってもストロボの発光が中止され、自動的に一般撮影に切り替わります。

- 35mm未満のレンズ
- 210mm以上のレンズ
- マクロレンズ

これは、画面の四隅が暗くなるようなケラレが出たり、レンズの本体がストロボの光路を遮って、画面下部に半円形のケラレが出たりするためです。この機構は、Fレンズ〔レンズにsmc PENTAX-Fという記号で表示されています〕に組み込まれていますが、他のレンズでは警告が出ませんから、お使いになる場合には、充分にご注意ください。

③目が赤く写るとき

一般に「赤目現象」と言われ、周りが暗いと瞳孔が開くため、網膜にストロボ光が反射して発生する現象です。発生するかどうかは個人差もあるようですが、完全に防ぐことはできませんので、人物を撮影される場合には、周りを明るくして、瞳孔を閉じらせる方向に持って行ったり、ズームレンズでしたら広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用してください。

2.手動絞りで使うとき

ここの内容は「いろいろな機能の操作編」をお読みいただいた後にご覧ください。また、30ページの「ご使用上の注意」も改めてお読みください。

ピントを深く合わせたいときなどに、ご自分で絞りを調節して使うことができます。

この場合は、絞り優先自動露出[40ページ]かマニュアル露出[42ページ]にして、絞りを手動にして使います。

「ストロボお勤め表示」が出るとき

	周りが暗い	逆光
絞り優先自動露出	○	○
マニュアル露出	×	○

使用する絞りから、ストロボでの撮影範囲の目安を計算します。

遠距離側の目安 $GN \div \text{使用絞り}$
 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 5$
 [0.7m以下の近距離では使えません。]

※GN=ガイドナンバー

31●

また、距離が先にわかっているときは、撮影距離から使用する絞りを計算します。

$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用できる絞り}$

*計算で出た数字が例えば「3」というように「4」「2.8」のいずれでもないときは、一般的に数字の小さい方の絞り「2.8」に合わせます。

なお、GNは使用するフィルム感度〔ISO〕により下の表のようになります。

ISO 25 → GN 6	ISO 200 → GN17
ISO 50 → GN 8.5	ISO 400 → GN24
ISO 100 → GN12	

ここで、ISO 100のフィルムを、絞りF3.5で使うときの操作をしてみましょう。

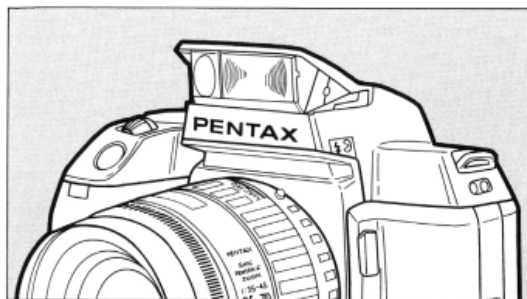
- 1.レンズの絞りをF3.5に合わせます。
- 2.ストロボ撮影の撮影範囲を計算します。

$$GN12 \div F3.5 = 3.4m$$

$$3.4m \div 5 = 0.68m \rightarrow 0.7m$$

- 3.3.4mから0.7mの範囲でストロボ撮影をします。

④ 近いものと遠いものを一緒に撮影するときに、遠い方に絞りを合わせますと、近いものに余計に光が当たることになりまますから白っぽく〔露出オーバー〕なることがあります。



内蔵ストロボのまとめ

ガイドナンバー[GN]	12[ISO 100のとき]
充電時間	約4秒
使用フィルム感度	ISO 25～400
プログラムストロボでの 撮影範囲	約0.9m～4.3m [F2.8のとき]
使用レンズ	35mmから210mmまで 35mmは1m以上でお使いください。 マクロレンズは除きます。

暗い所では、オートフォーカスができなくなりますが、SF7では内蔵ストロボを飛び出させて、シャッターボタンを軽く押すと、赤色光が自動発光して約1～4mの範囲でオートフォーカスを働かせることができます。
この赤色光を「AFスポットビーム」と言います。

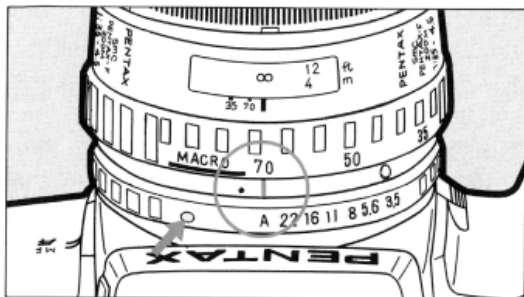
- AFスポットビームは、**AF** [オートフォーカス] のときのみ働きます。
- ストロボを使わないときは、ピントが合った所で、フォーカスロック[20ページ]をしたまま、内蔵ストロボを収納して撮影することもできます。
- 明るい所ではAFスポットビームは働きません。
- **□** が点滅しているときは、ピント合わせができないときです。[45～47ページをご覧ください。]
- AF400FTZやAF240FTのAFスポットビームを使うときは、内蔵のAFスポットビームは働かなくなります。

基本撮影編はこれでおしまいです。⇒

33●



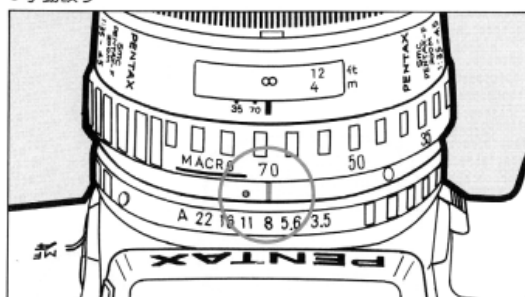
●絞りA



FレンズとSF7を組み合わせてご使用になりますと、プログラム自動露出のほかに、レンズの絞りの位置によって、各種の「露出方式」が得られます。

絞りをAまたは、手動絞りにするときは、矢印のレンズのボタンを押したまま、絞りリングを回します。

●手動絞り

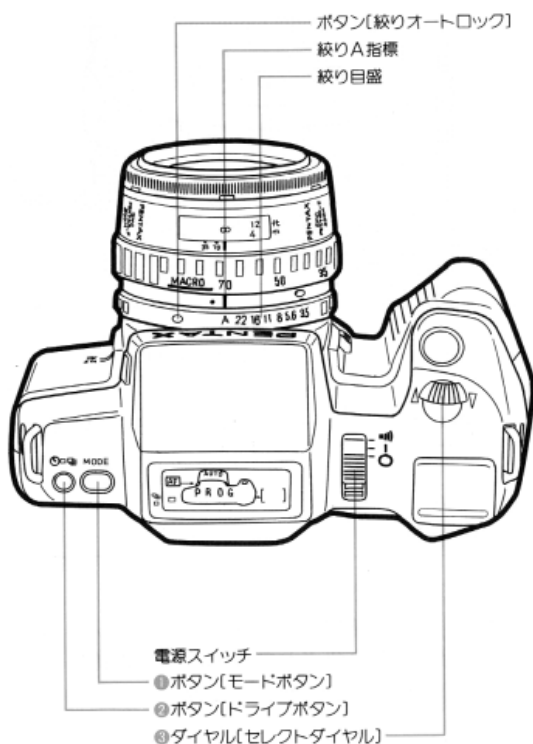


○	プログラム自動露出
A 絞りA	シャッター優先自動露出
○	絞り優先自動露出
11 8 5.6 手動絞り	マニュアル露出 bulb〔バルブ〕

*手動絞りで使うとき

図のように、開放F値が変わるズームレンズは赤線指標の横の色点が望遠側の絞り指標になります。〔Fレンズの説明書もご覧ください。〕

35●



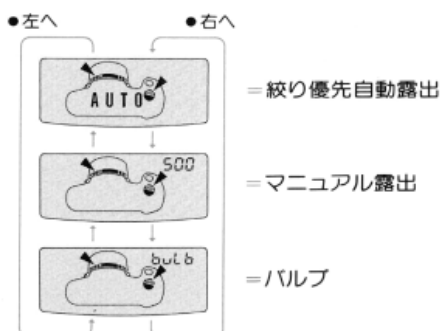
露出方式の選び方

1. レンズの絞りを **A** か **A** 以外に合合わせます。
 2. スイッチを **I** か **II** にして、電源を「入」にします。
 3. 図①の灰色の **○** ボタンを押したまま、③の **●** ダイヤルを右か左に一回づつ動かして、露出方式を選びます。
- * ①の **○** か②の **●** ボタンを押すと表示パネルの **●▲** が点滅して、次に **●** ダイヤルを動かすことを知らせます。
- * シャッター優先自動露出やマニュアル露出では、**●▲** が表示され、次に **●** を動かすことを知らせます。
- * 右図のように、「露出方式」の表示が変化します。
- * **●** ダイヤルを押したままにすると、表示が早送りします。

絞りがAのとき



手動絞りのとき



SF7の露出測光システムについて

SF7は、ペンタックス独自の分割測光システムを採用し、被写体〔写したい物〕と背景に明暗差がある逆光条件などでも、露出が自動補正され適正露出が得られるようになっています。〔プログラム・絞り優先・シャッター優先自動露出時〕

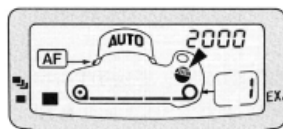
また、さらに極端な明暗差のもとではTTL自動測光の内蔵ストロボやメモリーロックを使用することにより、手軽にきれいな写真を撮ることができます。なお、マニュアル露出やメモリーロック使用時は、中央〔ファインダー中央部〕部分測光に切り替わりますので、多彩な撮影テクニックをお楽しみいただけます。

37 ●

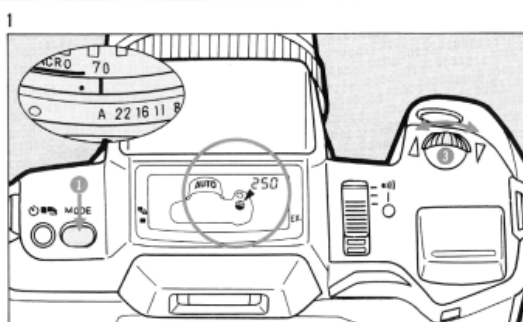
シャッター優先自動露出の使い方

シャッター優先自動露出

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を表現するのに特に適しています。



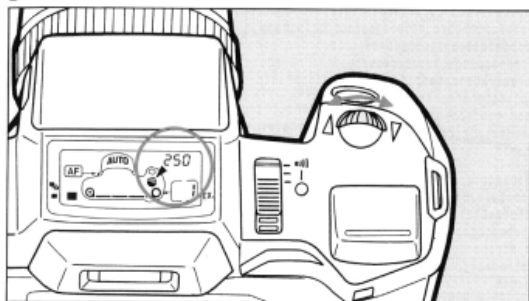
が表示して、シャッター速度が選べることを知らせます。



1. 絞りを **A** に合わせます。

図のように、**AUTO** と「シャッター速度」が表示されるように、①の  ボタンを押したまま、③の  ダイヤルを動かしてシャッター優先自動露出にします。

2



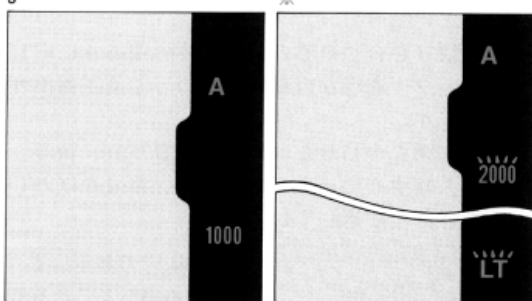
2. シャッター速度を選びます。

図のように、速い速度にするとときは ダイアルを左へ、遅い速度にするとときは右に動かします。

* 一回づつ動かすごとに表示が変わり、押したままにすると早送りします。

* 2000[1/2000秒]～1[1秒]まで表示します。

3



3. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **A** と、選んだ「シャッター速度」が光ります。[1/15～1秒のときは **LT** が光ります。]

※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内の表示のどちらかが点滅して警告します。遅い速度[**LT** 側]、または、速い速度[**2000**側]に変えて、点滅しなくなれば撮影ができます。

30～**LT**[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。

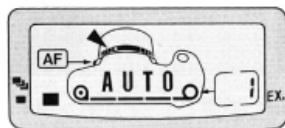
39 ●

絞り優先自動露出の使い方

絞り優先自動露出

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。

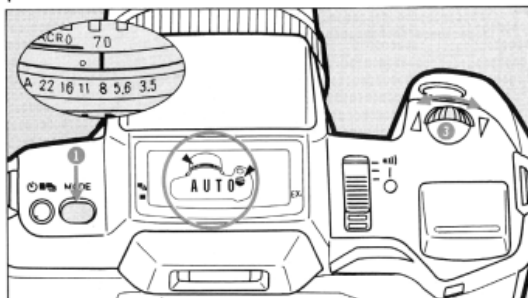
ビントを深く合わせたい風景や集合写真、接写、また、人物中心にビントを合わせ、背景をぼかしたいときなどに適しています。



が表示して、絞りを選べることを知らせます。

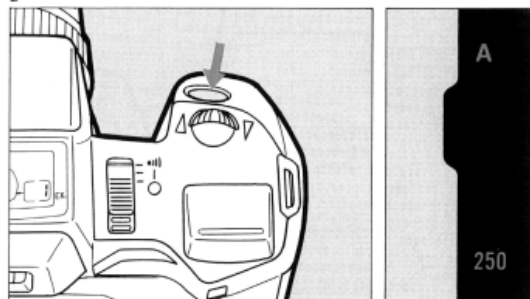


1

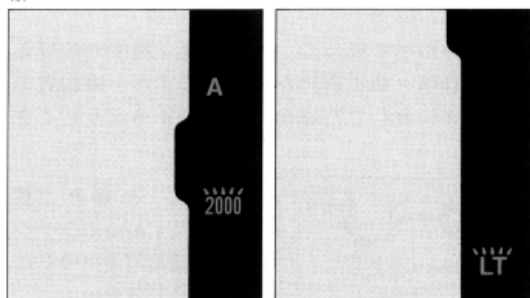


1. 手動絞りにします。

図のように、**AUTO** が表示されるように、①の ボタンを押したまま、③の ダイアルを動かして絞り優先自動露出にします。



2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に「A」と、選んだ絞りに応じた「シャッター速度」が光ります。[1/15～1秒のときは、LTが光るか、点滅して露出警告をします。]



※露出警告

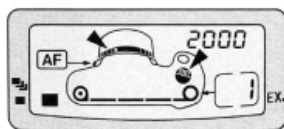
被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内の表示が点滅して警告します。絞りリングをF22など大きい数字の方へ回すか、F1.4など小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30～LT[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。[ファインダー内の露出警告表示62ページもご覧ください。]

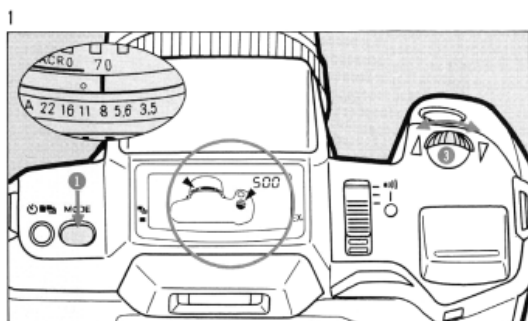
マニュアル露出の使い方

マニュアル露出

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で、撮影することもできます。



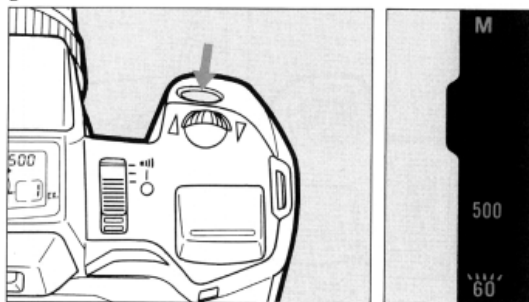
☐と☑が表示して、絞りとシャッター速度が選べることを知らせます。



1. 手動絞りにします。

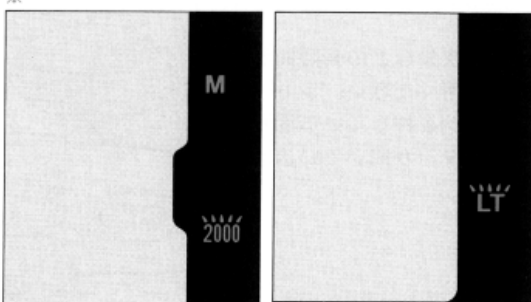
図のように、「シャッター速度」が表示されるように、①の☐ボタンを押したまま、③の☑ダイヤルを動かしてマニュアル露出に合わせます。





2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **M** と「シャッター速度」が光ります。
 [1/15～1秒のときは、**L T**が光るか、点滅して露出警告をします。]
 例えば、図のようにシャッター速度が点滅したときは、露出が合っていないときです。シャッター速度や絞りを調節して、点滅が消えて一つの表示が光るようにすれば適正露出になります。

- * 絞りリングを回しても適正露出にならないときは、シャッター速度を合わせ直します。
- * シャッター速度を変えても、適正露出にならないときは、絞りを合わせ直します。



※露出警告

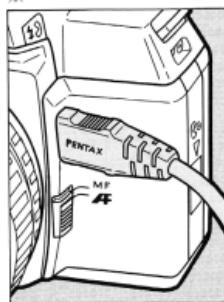
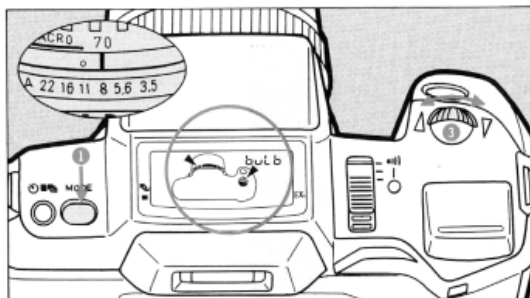
被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内の表示が点滅して警告します。絞りリングを **F22** など大きい数字の方へ回すか、**F1.4** など小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30～**L T** [1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。
 [ファインダー内の露出警告表示62ページもご覧ください。]

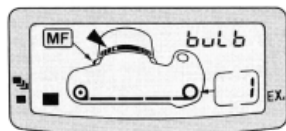
bulb [バルブ]

バルブ露出

花火・夜景などの長時間撮影にご利用ください。シャッターボタンを押している間だけシャッターが開いています。



※バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、図のように別売りの「ケーブルスイッチ F」をリリースソケット F に差し込んでご使用ください。



☞ が表示して絞りを選べることを知らせます。

絞りは、手動絞りにします。

①の ボタンを押したまま、③の ダイアルを動かして **bulb** [バルブ] 表示を出します。

* シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **M** が光ります。

※ バルブ撮影のときは、セルフタイマーは使えません。

* 新品のリチウム電池[常温]で、約10時間の長時間露出ができます。

オートフォーカス機構は高精度のものですが、万能ではないため被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによっては、ピントが合わないことがあります。〔マニュアルフォーカスでも同じです。〕

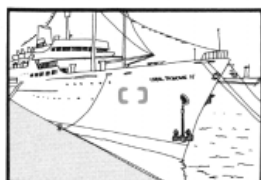
このような場合は、フォーカスロック撮影や暗い所では内蔵ストロボを利用してお使いください。

- 白壁などコントラスト〔明暗差〕の非常に低い被写体。
- 光を反射しにくい被写体。〔真黒いものなど〕
- 非常に速い速度の被写体。
- 横線だけの被写体。細かい模様の被写体。
- 遠・近の物が〔C〕の中で混在する被写体。
- 反射の強い光、強い逆光、周辺が特に明るい被写体。

アクセサリーの注意

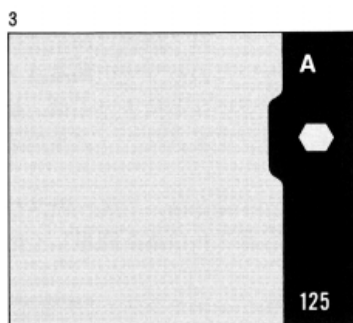
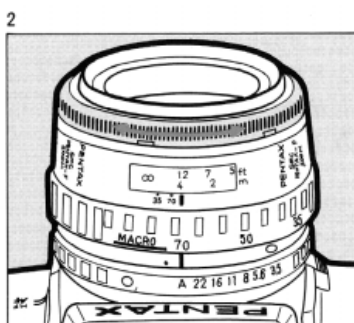
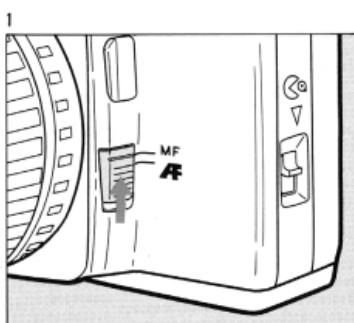
下記のアクセサリーでは、**AF**〔オートフォーカス〕や **○** によるピント合わせができませんから、マット部分〔47ページ〕でピントを合わせてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使ったとき。
- SF7はミラーにハーフミラーを使っているため、一般用偏光フィルターは使えませんので、円偏光フィルターをお使いください。
- 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写。



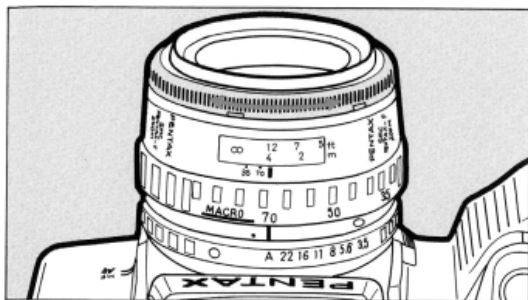
45 ●

MF〔マニュアルフォーカス〕でのピントの合わせ方



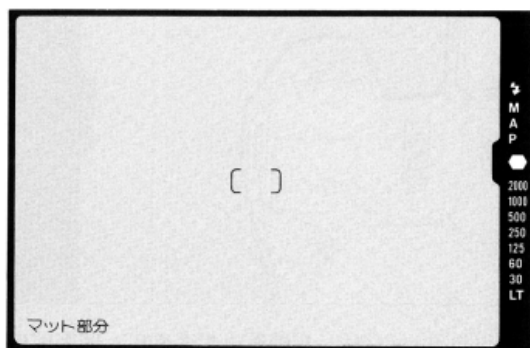
従来のペンタックスK_AおよびKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ〔F5.6～F1.2〕を使うときは、ファインダー内の **○** に従って手動によるピント合わせができます。なお、K_{AF} マウントレンズ〔Fレンズ〕でも、**MF** にすると同じ操作になります。

1. 図のように、レバーを **MF** に合わせます。
2. シャッターボタンを軽く押したまま、レンズの距離リングを右または左へ回してピント合わせをします。
3. **○** が緑色に光れば撮影できます。
* スイッチが **AF** のときは、電子音で知らせます。



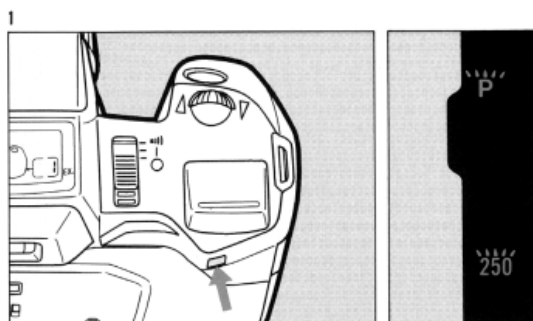
下記のようなときは、 が利用できませんから、ファインダーの  マーク以外のマット部分を使って手でピント合わせをします。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」や  が出ないとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズ。
- ベローズ100mm F4・シフト28mm F3.5〔シフト時〕レフレックスタイプのレンズ。
- 旧タイプのねじ込み式タクマーレンズに、別売りの「マウントアダプターK」を取り付けて使うとき。



「マット部分でのピント合わせ」は、 マークに関係なくスクリーンのマット部分でピント合わせをすることです。

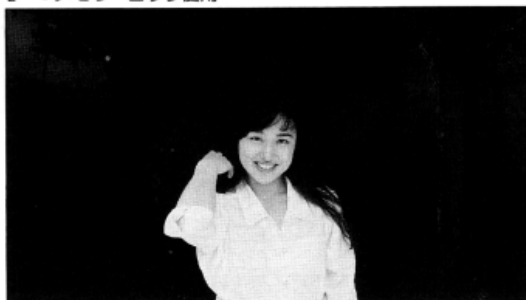
ML [メモリーロック]の使い方



メモリーロックは、自動露出のときに、撮影前の露出情報をカメラへ一時的に記憶させるもので、露出の補正をするときに使用します。

逆光や背景の明暗が激しい所などでの人物撮影などにご利用ください。

2 ●メモリーロック使用



1. 人物の顔などをファインダーいっぱいに入れて、 ボタンを押します。押している間は顔の明るさに合った露出が記憶されます。

*メモリーロック中は、ファインダー内の露出表示が速い点滅で知らせます。

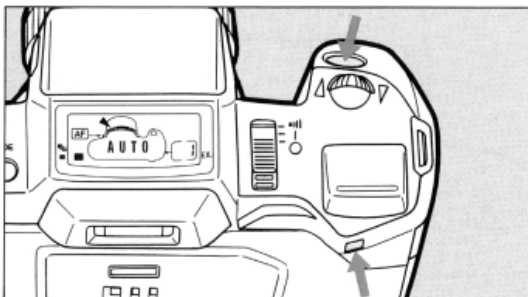
2. 写真のように、メモリーロックを使って希望の構図に戻して撮影すれば、人物が適正露出になります。

*  ボタンから指を離すか、または、シャッターを切ると記憶は解除されます。

●メモリーロックなし



※

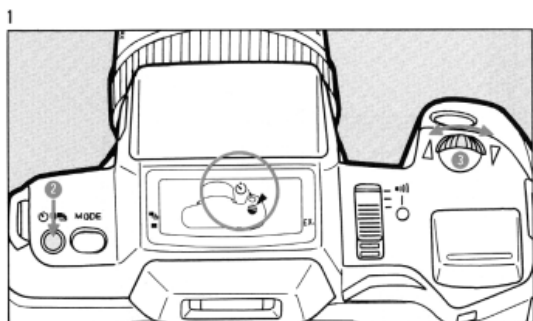


※メモリーロック中にシャッターボタンを軽く押し続けると、**ML** ボタンから指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。

- ③メモリーロックを使うときは、被写体に近づいたり、ズームレンズのときは望遠側にしてご利用ください。
- ④マニュアル露出でも、**ML** ボタンを押すと、ファインダー内のシャッター速度の表示は固定され、表示が点滅します。

49 ●

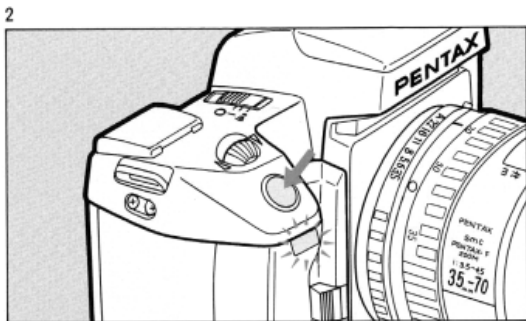
セルフタイマーの使い方



セルフタイマーは撮影者も入って記念撮影などをするときに使う、タイマー撮影です。

1. ②の **●** ボタンを押したまま、③の **●** ダイアルを動かして **S** の表示を出します。

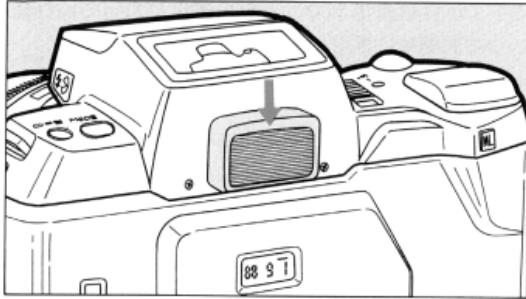
* スイッチを **■** に合わせておくと、セルフタイマーの作動中はセルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる 2 秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピピピ」になります。



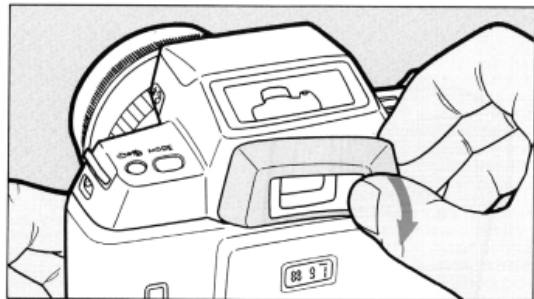
2. 写したいものにピントを合わせたまま、さらにシャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

* セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、スイッチを **○** にして、電源を切るとセルフタイマーは解除されます。なお、スイッチを **I** か **■** に入れ直すと、**■** [1コマ撮影] になります。
[**■** か **■** にしても中止します。]

※



※ファインダー窓から目を離して自動露出で使うときは、ファインダー窓から入る光のために露出不足になることがあります。セルフタイマーを使うときは、付属のファインダーキャップをご利用ください。

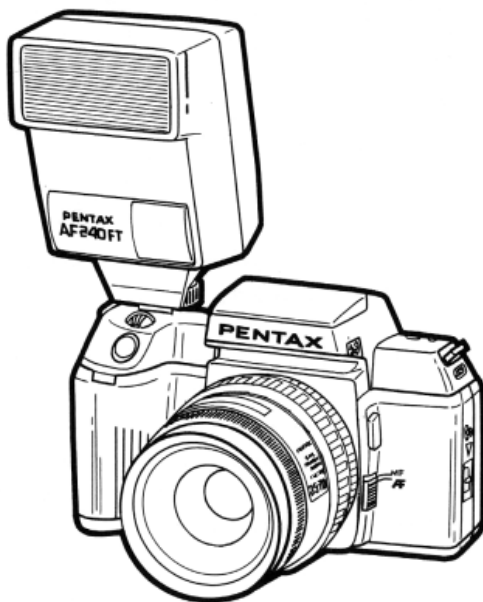


アイカップF_Bは、カメラのアクセサリ取り付け溝に取り付けられています。

- *「視度調整レンズM」や「ファインダーキャップ」などのアクセサリを使うときは、アイカップF_Bを取り外して使います。
- *アイカップと視度調整レンズを併せて使いたいときは、別売りの「アイカップMⅡ」と「67用視度調整レンズ」を組み合わせてください。

51

ペンタックス・専用オートストロボの使い方



SF7が自動露出やマニュアル露出になっていればいつでも簡単に専用オートストロボが使えます。

専用ストロボ撮影の手順

1. カメラの「ホットシューカバーF_B」を外して、ストロボを取り付けます。
 2. ストロボのモードをTTLオートか外光オートに合わせます。
 3. ストロボの電源スイッチを入れます。
- * ストロボの充電完了確認は、ストロボの充電完了ランプでできますが、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の  が光ります。
 - * シャッターボタンから指を離すと、約5秒後に  と「シャッター速度」の表示も消えます。
- * SF7には、右表のように豊富な機能を持った、専用ストロボ「AF400FTZ」や「AF240FT」をご利用ください。

内蔵ストロボおよび専用ストロボの機能一覧表

SF7の機能	SF7 内蔵ストロボ	AF400FTZ AF240FT	AF400T AF280T	AF200T AF080C	AF200SA AF140	AF200S AF160
ストロボの充電完了時、シャッターボタンを軽く押すとファインダー内の  が光ってシャッター速度が自動的にストロボ同調速度に切り替わります。	○※	○	○	○	○	
絞りG Aのときは、絞りは自動的に合わせられます。	○	○	○	○	☆	
オートストロボが正常に働いたときは、ファインダー内の  が発光後に点滅表示します。		○	○	○		
ストロボの発光量は、撮影中のフィルム面光量を測定しながら自動的に調節します。[TTLオートストロボ]	○	○	○	○		
マニュアル露出のときは、1/100秒以下の低速シンクロ撮影が可能です。	○	○	○	○	○	
暗い所ではAFスポットビームが発光します。	○	○	○	○		
先幕・後幕シンクロ撮影の切り替えができます。		○				

※旧タイプの「AF140」や「AF160」・「AF200S」は、ストロボで決められた絞りに合わせて使用してください。

注 ストロボが不要な程度に明るい所では、オートストロボに切り替わっていてもストロボが発光しないこともあります。

※印は充電完了時に、  が表示されます。

☆印「AF200SA」は自動的に合わせられます。

TTLオートストロボ

SF7の内蔵ストロボやペンタックス・専用TTLオートストロボを使ったときは、レンズを通してフィルム面に当たる光の反射を直接測光し、適正露出となるように、測光回路がストロボの発光量を自動的に調節します。被写体からの反射光だけを測るため、正確な露出が得られます。

53 ●

TTLオート・外光オートストロボの使い方

TTLオートストロボの使い方

プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

※SF7専用の「AF400FTZ」や「AF240FT」は、内蔵ストロボと同様、被写体の明るさに応じてシャッター速度や絞りが自動的に切り替わるので、日中シンクロ撮影も簡単にできます。詳しくは、ストロボの説明書をご覧ください。

※従来の「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」・「AF080C」では、充電が完了すると、ストロボ同調速度の1/100秒と絞りF4[ISO 100のとき]に切り替わりますので、日中シンクロ撮影には、おすすめてできません。

[AF080CはF8・ISO 100のとき]

注 ISO 100では自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ[F3.5～F4.5]をF4.5側で使うと露出不足になる場合がありますのでご注意ください。

絞り優先自動露出・マニュアル露出

※レンズの絞りを、希望の絞りに合わせます。

※充電が完了すると、1/100秒に切り替わります。

外光オートストロボの使い方

プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

※「AF200SA」・「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」などは、スイッチをオート[赤・緑・黄]位置に合わせます。

※充電が完了するとシャッター速度は、1/100秒になり、絞りは下表のように切り替わります。

ISO 100のとき

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄	—	—	F11

[AF200SAは、オート専用機でISO 100のときF4になります]

注 表のようにISO 100で「AF280T」の赤を使うと自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ[F3.5～F4.5]をF4.5側で使うと露出不足になりますのでご注意ください。

絞り優先自動露出・マニュアル露出

※ストロボのオート[赤・緑・黄]に合わせます。

※レンズの絞りは、ストロボの計算盤で指定された絞りに合わせます。

※充電が完了すると、1/100秒に切り替わります。

TTL・外光オートストロボの共通な使い方

S F 7 のマニュアル露出では、シャッター速度を 1/60 秒～1 秒の範囲内に合わせると、低速シンクロ撮影ができます。

シャッター速度は、 ダイヤルで希望の速度を選びます。

低速シンクロ撮影

夜景などを背景にして、近くのものや人物にストロボをあてるとき、通常にストロボ撮影をすると背景が暗くなってしまいますが、シャッター速度を低速にしてストロボを発光させると、背景の様子もバランス良く写し込むことができます。

* シャッター速度を 1/2000～1/125 秒にしているときは、充電が完了すると、1/100 秒に切り替わります。

[オートチェック]表示

TTL・外光オートストロボが適正な発光をすると、ストロボ発光後に、ファインダー内の  が点滅して、ストロボ撮影の完了を知らせます。

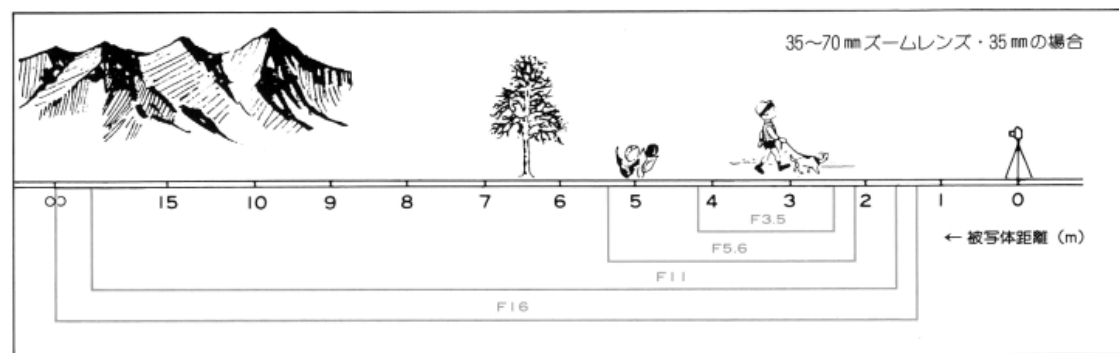
*「AF200SA」には、この機能はありません。

専用ストロボ使用上の注意

- ストロボの MS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル] では、ストロボで決められた絞りで使用してください。
絞りを **A** にしたいときは、適正露出が得られません。また、ストロボの種類によっては、MS、M の機能が異なる場合がありますので、ご使用のストロボの使用説明書をご覧ください。
- TTL オートや外光オートストロボで、増灯撮影をするときは、内蔵ストロボとペンタックス専用ストロボを組み合わせると増灯撮影ができます。ストロボ機能はホットシューに取り付けたストロボが優先します。撮影のときは、各ストロボの充電完了を確認して行なってください。
- **bulb** [バルブ] 使用でも、TTL オートや外光オートストロボの撮影は可能です。
- AF080C リングライトをホットシューの上に取り付けるときは、ホットシューアダプター F を用いるとシャッターボタンの操作が楽になります。

55 ●

被写界深度



被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。



ピントの合う範囲

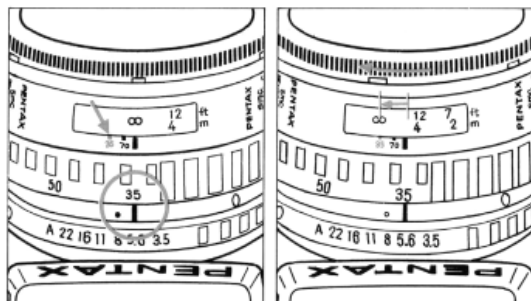
絞り込むほど、広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。絞りを換えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛は機構的に入っていないものもあります。

●絞りF4



●絞りF22



赤外線フィルムとR 2やO 2のフィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影〔可視光〕とピント位置が異なってくるため、ピント補正が必要です。

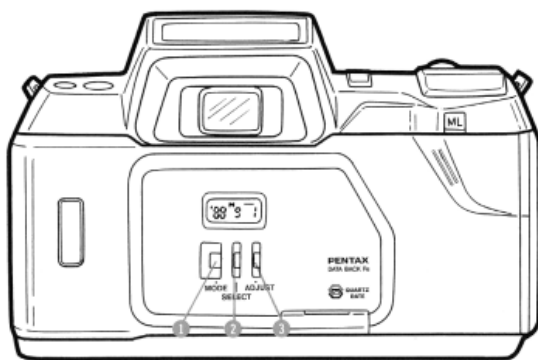
ファインダーでピントを合わせたときの距離目盛りを読み取り、レンズの距離リングを回し、赤外線指標の位置までずらして撮影します。

図のように、ズームリングの数字が35のときは、距離目盛りを35の赤外線指標〔赤線〕にずらします。

④ レンズの距離リングを回すときは、必ず、**MF**〔マニュアルフォーカス〕にします。

57 ●

クォーツデートのデータ修正



- ① **MODE** モード：切り替えボタン
- ② **SELECT** セレクト：選択ボタン
- ③ **ADJUST** アジャスト：調整ボタン

* 数字は、次のように表示されます。

年 = 87 ~ 19	[1987 ~ 2019年]
月 = 1 ~ 12	日 = 1 ~ 31
時 = 0 ~ 23	分 = 00 ~ 59

データ修正

1. ②の**SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅するところが移動しますので、修正したい数字を点滅させます。

点滅の順番

年月日表示のとき 年 → 月 → 日

時分 表示のとき 時 → 分 → :

2. ③の**ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。

* **ADJUST** ボタンは一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後から早送りされます。

* データの修正を行なうときは、コイン等をご使用ください。

「年月日」表示の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

「日時：分」表示の修正

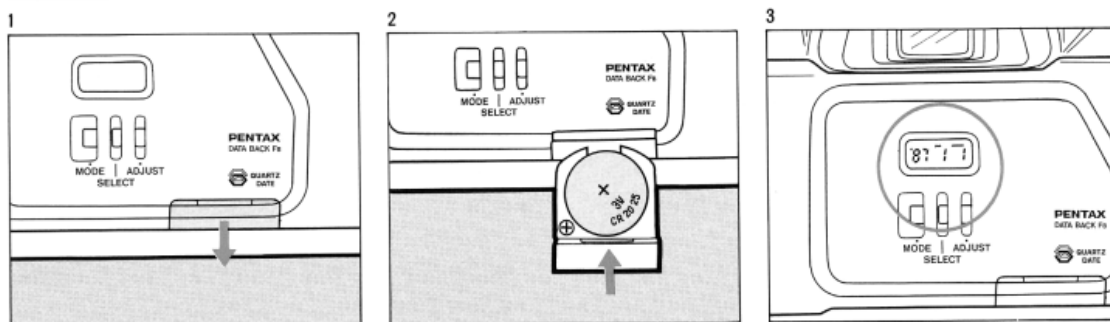
- ②の **SELECT** ボタンを押し、時分秒[:]表示のうち修正したい数字[秒は:]を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒[:]を合わせるときは、③の **ADJUST** ボタンを押し、時報などに合わせて離すと0秒になります。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押し、点滅を止めます。

クォーツデートの使用上の注意

- 「年月日」と「日時：分」は同時に写し込めません。
- デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- 使用できるフィルムは、感度がISO 25～1600までのものです。
感度はS F 7にDXフィルムを入れると自動的に合わされます。
- 高感度フィルム[ISO 1000・1600]を使ったときは写し込まれる文字がにじむことがあります。
- ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- 修正途中[点滅表示]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- 時計の機能が正常に働かないときや、データ表示が薄くなってきたり、消えたときは、データの写し込みが正しく行なわれない場合がありますので、電池を交換してください。

59 ●

クォーツデート用の電池の交換



- S F 7の裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜いて電池を取り外します。
- 新しい電池の⊕側を上にして電池ケースに入れ元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

- 電池を入れると、データが表示されます。表示が出ない場合は、電池の⊕⊖を正しく入っているかを確認してください。
[データ表示の修正は58～59ページをご覧ください。]

* 電池は必ず決められたリチウム電池 **CR2025** を1個使用します。

電池について

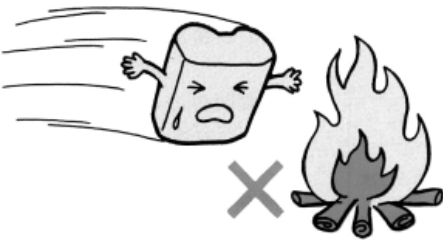
- SF7のカメラ用は、リチウムの「2CR5」、デート用はリチウムの「CR2025」電池を使用します。
- 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は漏液・発熱・破裂の恐れがあります。入れるときは⊕⊖を正しく入れてください。
- カメラを長期間使わないときは、カメラから電池を出しておいてください。古くなった電池は液もれを生じ故障の原因になることがあります。特にデート用電池は幼児の手の届かない所に保管してください。
- 電池を分解したり、充電したり、火の中に入れると破裂の恐れがあります。

- 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量不足になることがあります。常温に戻れば使用できます。
- 旅行や野外撮影などには、予備電池を用意しておくで安心です。
- カメラバッグなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。スイッチを○にして切っておくと安全です。
- 内蔵ストロボを連続して使うと、カメラ用電池が多少温くなる場合があります。これは電池の特性で異常ではありません。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

常 温 時	一般撮影		約 150 本
	ストロボ撮影	50%使用	約 40 本
		100%使用	約 20 本
	バルブ露出時間[常温時]		約10時間

新品のリチウム「2CR5」電池で、当社試験条件による。[24枚撮りフィルム]



ファインダー内の露出警告表示

ファインダー内表示	内 容
P 2000	プログラム自動露出での「測光範囲外」です。そのまま撮影すると、適正露出は得られません。 [L Tの点滅は手ぶれ警告、早い点滅は測光範囲外]
P LT	
A 2000	シャッター優先自動露出での「測光範囲外」または「連動範囲外」です。「連動範囲外」は、シャッター速度を変えれば撮影できます。「測光範囲外」は、シャッター速度を変えても点滅が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られません。
A LT	
A 2000	絞り優先自動露出での「測光範囲外」または「連動範囲外」です。「連動範囲外」は、絞りを変えれば、撮影できます。「測光範囲外」は、絞りを変えても点滅が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られません。
A LT	[L Tの点滅は手ぶれ警告、早い点滅は測光範囲外]
M 500 125	マニュアル露出での「適正露出外」です。シャッター速度や絞りを变更后、点滅が消えて速度表示が一つになれば適正露出です。
M 250 60	
M 2000	マニュアル露出での「測光範囲外」は、シャッター速度や絞りを变更后も点滅が消えません。そのまま撮影すると適正露出は得られません。
M LT	
P 250	メモリーロック使用中は、ファインダー内の点滅で知らせます。
P 60	バッテリー警告表示 カメラの電池が消耗して容量が少なくなったことを点滅で知らせます。表示パネルには、マークが点滅します。
	ストロボ撮影が必要な被写体条件では、マークが点滅してストロボの使用をお勧めします。

- 警告は点滅によって知らせます。
- 測光範囲外とは、被写体の明るさが極端に明るい暗いため、カメラの露出計が働く範囲を越えている場合です。
- 連動範囲外とは、測光範囲内でもシャッター速度と絞りとの組み合わせが使用限界を越えているときです。
- 左表のは点滅表示です。
- 被写体が暗くて30～LT[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。

測光範囲外のときの撮影方法

- ①被写体が明るいときは市販のNDフィルターをご利用ください。
- ②被写体が暗いときは、ストロボや他の照明光が必要です。

SF7と各種ペンタックスレンズを組み合わせたときの機能

交換レンズ	SF7機能 プログラム自動露出 シャッター優先自動露出	絞り優先自動露出 マニュアル露出	AF [オートフォーカス]		MF [マニュアルフォーカス]	
			AFアダプター 1.7×を 組み合わせたとき	AFマークの使用	マウント部分合わせ	マウント部分合わせ
Fレンズ (SMC PENTAX-F)	○	○	○	○	○	○
Aレンズ (SMC PENTAX-A)	○	○	×	○※	○※	○
Mレンズ (SMC PENTAX-M)	×	○	×	○※	○※	○
Pレンズ (SMC PENTAX)	×	○	×	○※	○※	○
ねじ込み旧タクマーレンズ	×	○	×	×	×	○

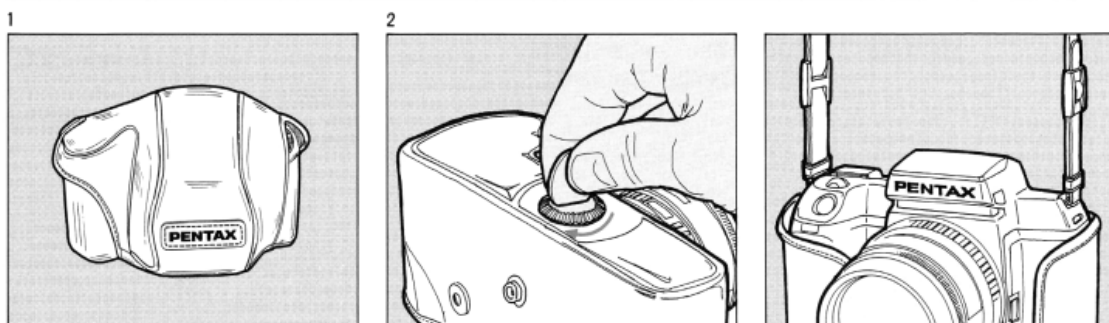
※※印のレンズには、下記のような使用制限があります。

- MF [マニュアルフォーカス] でピントを合わせるときは、レンズの開放F値がF5.6を含めてそれ以上の明るいレンズが使用できます。
- レンズの開放F値がF2.8を含めてそれ以上の明るいレンズ「AFアダプター1.7×」を組み合わせたときオートフォーカス撮影が使えます。
[詳しくは、AFアダプター1.7×の説明書をご覧ください。]
- ねじ込み旧タクマーレンズは、絞り込み測光となります。

- AF [オートフォーカス] に合わせて、KAマウント[Aレンズ]やKマウント[M、Pレンズ]レンズを使うと、「スナップインフォーカス撮影」[被写体がある位置にあらかじめピントを合わせ、シャッターボタンを押したままにすると、ピントの合った瞬間にシャッターが切れる。]ができます。[ケーブルスイッチF使用可能]

63●

ソフトケース



ソフトケースはバックケース[底ぶた]とフロントケース[前ぶた]で組み合わせられています。

1. フロントケースを開いてカメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを締め付けて固定します。

*ソフトケース[別売]には、SF7用とSF7クォーツデット用があり、クォーツデット用はカメラをケースに入れたままで、表示の切り替えができます。なお、フロントケースは共用で、標準用のSのほか、M・Lの3種類があります。

ケース	適合するFレンズ
S	50mm/F1.4・F1.7、ズーム35～70mmなど
M	135mm/F2.8、ズーム35～105mmなど
L	マクロ100mm、ズーム70～210mmなど

専用アクセサリ〔別売〕

S F 7には、各種専用アクセサリが用意されています。詳しくは、カタログ等をご覧ください。

●ケーブルスイッチF

S F 7やS F X用のリリースコード。

●マグニファイヤーF_B(近日発売)

ファインダー中央部を拡大して見る、接写用アクセサリ。

●オートストロボAF240FT、AF400FTZ

AF240FTはガイドナンバー24、AF400FTZはガイドナンバー40のズームストロボ。また、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●ホットシューアダプターF、延長コードF 5 P

AF240FTやAF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

●赤外リモートリリースコード

遠隔操作の赤外リモートコントロールシステムとS F 7を接続するコード。

●AFアダプター1.7X

F2.8より明るい、K_A・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

●データバックF_B

日付や時間を写真に写し込むことが可能。
〔S F 7は、データバックFも使用可能。〕

●インターバルデータバックF

日付や時間のほかにカウントなどを写し込むこともでき、さらにタイマー撮影などが可能。

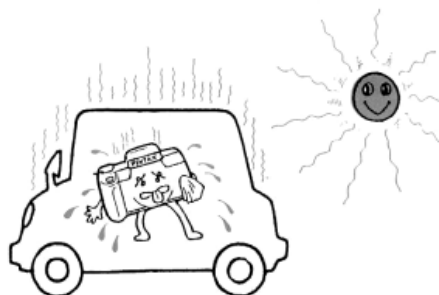
アクセサリの注意

- 「オートベローズA」は、ダブルリリースが使用できません。また、縦位置撮影のときは、S F 7のグリップ側を上にしてご使用ください。
- 「645レンズ用アダプターK」を使うときは、アダプターの取り付け位置によっては、固定ネジがS F 7に当たる場合がありますので、取り付けるときにご注意ください。
- S F X用のアクセサリで、「マグニファイヤーF」、「アイカップF」「ホットシューカバーF」は使用できません。マグニファイヤーは、「マグニファイヤーM」や「マグニファイヤーF_B」をご使用ください。

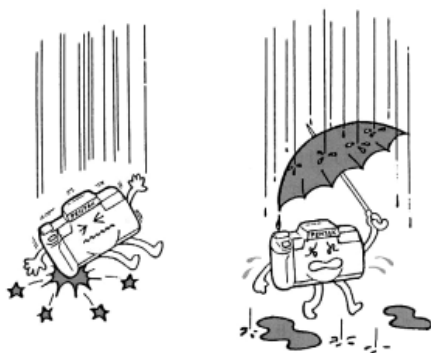
65 ●

取り扱い上の注意

- カメラは精密機械です。取扱いは充分ご注意ください。
- 落としたり、固い物にぶつけないようにしてください。もし強いショックや圧力を与えたときは点検を受けてください。
- レンズやファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、レンズブラシで取り去ってください。
- 高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けてください。特に車の中は高温になることがありますのでご注意ください。



- カメラの使用温度範囲は50℃～-10℃です。
- 暖かい部屋と寒い外などを急に出入れすると、カメラの内外に水滴を生じます。温度変化の大きいときはバッグやビニールの袋に入れて、10℃の温度変化に対して30分以上をかけ、ゆるやかに変化させてください。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの溶剤は使用しないでください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入ると、故障の原因になりますからご注意ください。保証期間中でも有料修理になる場合があります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。



- シャッター幕やミラーには、手を触れないでください。
- 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に電池の液もれや手油などによる汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。
- 汚れやゴミを取り除いても不具合の場合は、当社のサービス窓口で点検を受けてください。
- サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を残しておくとう安全です。
- 水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社のサービス窓口にご相談ください。
- 高性能を保つため、1～2年毎に定期点検をおすすめ致します。長期間使用しなかったときや大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。

LCD[液晶表示]用バックアップ回路

撮影中に電池交換のために電池を抜いたときは、撮影枚数とフィルム感度は記憶回路が働きますから、合わせ直す必要がありません。

LCD[液晶表示]について

- 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

67 ●

仕様[SF7およびSF7クォーツデット]

型式	ストロボ内蔵マルチモードTTL AE・AF 35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm
使用フィルム	35mmフィルム[J135パトローネ入り] 35mmDXフィルム=ISO 25～5000 DXでないフィルム=ISO 100固定
露出モード	プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出
シャッター	電子制御式縦走りフォーカスブレイクシャッター オートシャッター1/2000秒～30秒、マニュアルシャッター1/2000秒～1秒、 電磁リリース、メインスイッチOFFでシャッターロック
レンズマウント	ペンタックスK _{AF} マウント[AFカブラー・レンズ情報接点付Kマウント]
使用レンズ	SMCペンタックスFレンズ[SMCペンタックス・A・Mレンズ……従来のK _A ・KマウントレンズのうちF5.6以上の明るいレンズはフォーカス表示による撮影が可能。F2.8以上の明るいレンズはAFアダプター1.7×によりAF可能。]
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式 オートフォーカス作動輝度範囲EV2～18[ISO 100]シングル撮影、 フォーカスロック可能 合焦速度 最短～∞約0.3秒[Fズーム35～70mm使用時] 低輝度時AFスポットビーム[有効距離1～4m]
ファインダー	ペンタプリズムファインダー[銀コート] アスフェリック・マイクロ マットフォーカシングスクリーン 視野率 縦・横92% 倍率0.82×[50mm・∞] 視度 -1D[ディオプトリー]
ファインダー内LED表示	フォーカス表示 [] 合焦表示[緑ランプが光る] 前ピン・後ピンおよび合焦不能表示[緑ランプ点滅] プログラム自動露出=P 2000～30、LT シャッター優先自動露出・絞り優先自動露出=A 2000～30、LT、マニュアル露出=M 2000～30、LT [] 光るときは=ストロボ充電完了表示、[] 点滅は=ストロボおため表示またはストロボ発光禁止警告、 メモリーロック表示=表示LED点滅、 手ぶれ警告=30～LT橙色表示、測光運動範囲外=2000またはLTが点滅表示
LCD表示パネル	プログラム自動露出=[A U T O] [P R O G.] 表示 シャッター優先自動露出=[A U T O] シャッター速度[1/2000～1秒] 表示 絞り優先自動露出=[A U T O] 表示 マニュアル露出=シャッター速度[1/2000～1秒] 表示 バルブ=[b u l b] オートフォーカス=[A F] 表示、マニュアルフォーカス=[M F] 表示、1コマ撮影=[] 表示、 連続撮影=[] 表示、セルフタイマー撮影=[] 表示、電池消耗=[] 表示、

	パトローネ・フィルム走行・巻き取りマーク＝  表示、 フィルム枚数・セルフタイマー＝0～99 表示
セルフタイマー	始動はシャッターボタン、電子式赤ランプ表示、作動時間約12秒[点滅・音・減算表示]、作動後解除可能
ミラー	スイング上昇式、クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式 1コマ撮影 連続撮影[約2コマ/秒]、フィルム終了時自動停止、巻き戻し時間は24枚撮りフィルムで約20秒、 巻き戻し完了時自動停止、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示
露出計・測光範囲	TTL分割測光、受光素子複合型SPD、50mm F1.4 ISO 100 EV1[F1.4・1秒]～19[F22・1/1000秒]
メモリーロック	ボタン式[ボタンを押している間ON]、表示中シャッターボタンを軽く押すとメモリーロック継続
ストロボ	並列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー12[ISO 100/m]35ミリレンズをカバー、 ストロボおため表示および充電完了表示付、同調速度1/60秒・1/100秒へ自動切り替え、 日中シンクロ・マニュアルで低速シンクロ可能、不適合レンズの場合、充電完了表示が点滅警告[Fレンズ]
シンクロ	ホットシュー[X接点 専用ストロボ接点付]専用ストロボ連動
電源	6Vリチウムパック電池[2CR5] 1個
電池消耗警告	バッテリーマークおよびファインダー内LED[点滅警告]表示、[バッテリーマーク点滅時シャッターロック]
裏ぶた	交換可能、[データバックF _B ・インターバルデータバックF]
大きさ・重さ	152.5[幅]×96[高]×63.5[厚]mm 630g[ボディのみ、電池別]
付属品	ホットシューカバーF _B 、リリースソケットキャップF、 アイカップF _B 、ファインダーキャップ、カメラストラップF

クォーツデイト(デイト仕様)

デイト機構	クォーツ制御・液晶表示式・デジタル時計・オートカレンダー〔西暦2019年まで、閏年は自動修正〕
データの写し込み方法	7セグメント6桁LCD[液晶]、フィルム背面より写し込み
データ表示	データ表示窓にLCD[液晶]表示、表示写し込み時 ― マークが2～3秒間点滅
データの種類	①年・月・日、②日・時・分、③……〔データ写し込み無し〕④月・日・年、⑤日・月・年、 年月日[年＝87～19(1987～2019年) 月＝1～12、日＝1～31]、時分[時＝0～23 分＝00～59]
使用フィルム感度	ISO 25～1600[感度自動セット]
データ電源	CR2025型[リチウム電池]
発光回数	約5000回
大きさ・重さ	152.5[幅]×96[高]×66.5[厚]mm 650g[ボディのみ、電池別]

69●

こんなときは? [詳しくは、各ページをご覧ください]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因	処置	参照ページ
シャッターが切れない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	13ページ
	バッテリー警告  が出ている。	電池を交換してください。	7ページ
	フィルムの最後まで撮影が終わっていない。	フィルムを取り出してください。	26ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	7ページ
	セルフタイマーになっている。	セルフタイマーを解除してください。	50ページ
	バルブ撮影で、セルフタイマーを使用している。	セルフタイマーを解除してください。	44ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	13ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	6ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	7ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物[被写体]に  フォーカスフレームが合っていない。	被写体を  フォーカスフレームに入れて、撮影してください。	18ページ
	写したい物に近すぎている。	写したい物から離れてください。	18ページ
	ズームレンズが、マクロになっている。	マクロを解除するか、カメラの位置を前後してみてください。	レンズ説明書参照
	MF[マニュアルフォーカス]になっている。	AF[オートフォーカス]にしてください。	16ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体。	フォーカスロックを使うか、マツト部分でのピント合わせや内蔵ストロボ[AFスポットビーム]などをご利用ください。	20ページ 47ページ 33ページ

症状	原因	処置	参照ページ
内蔵ストロボが光らない。	内蔵ストロボが充電されていない。	充電完了表示  を確認してから撮影してください。	29ページ
	ストロボ光が遮られるレンズ〔ズーム・望遠・マクロ〕を使用している。	広角35mmから、望遠210mmまでのレンズをご使用ください。 〔マクロレンズを除く〕	30ページ
内蔵ストロボが充電しない。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	6ページ
	シャッターボタンを押したままにしている。	シャッターボタンから指を離してください。	30ページ
ファインダー内の全LED表示が点滅する。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	6ページ
ファインダー内の  が点滅する。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な被写体などのため、ピント合わせができない場合。	フォーカスロックを使うか、マツト部分でのピント合わせや内蔵ストロボ〔AFスポットビーム〕などをご利用ください。	20ページ 47ページ 33ページ
		ストロボの使用をお勧めします。	28ページ
プログラム自動露出でファインダー内の  が点滅する。	手ブレ警告のときや、逆光撮影の場合。		
ファインダー内のシャッター速度〔数字〕が点滅する。	自動露出撮影での連動範囲外・測光範囲外または、マニュアル露出撮影での適正露出外のため、そのまま撮影すると、適正露出は得られません〕	自動露出の連動範囲外やマニュアル露出のときは、シャッター速度や絞りを調節してください。	39ページ
		測光範囲外の場合は、NDフィルターやストロボなどで光量調節をしてください。	41ページ
			43ページ
			62ページ

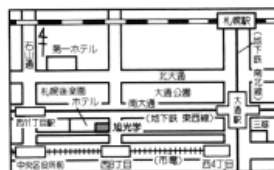
71●

お問い合わせは次の各サービス窓口へ



東京サービスセンター

☎03(571)5621℥
消費者相談室
☎03(572)6479
〒104
東京都中央区銀座西8丁目10番地



札幌サービスセンター

☎011(241)8742℥
〒060
札幌市中央区
大通西8丁目1番地1号
朝日生命札幌大通ビル4階



仙台サービスセンター

☎022(261)5681℥
〒980
仙台市中央2丁目2番10号
仙都会館4階



ペンタックスフォーラム

(ショールーム・写真展・修理受付)
☎03(348)2941℥
〒163
東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル1階(私書箱240号)



新潟サービスセンター

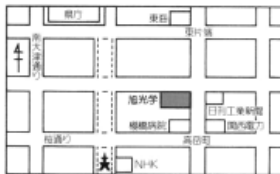
☎025(224)8391℥
〒951
新潟市本町通七番町1153番地
日本信販新潟ビル4階



横浜サービスセンター
 ☎045(681)8711(代)
 〒231
 横浜市中区不老町1丁目6番9号
 横浜エクスレントVビル3階



静岡サービスセンター
 ☎0542(55)6308(代)
 〒420
 静岡市伝馬町24番2号
 住友建設ビル5階



名古屋サービスセンター
 ☎052(962)5331(代)
 〒461
 名古屋市中区泉1丁目19番8号



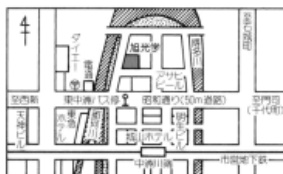
金沢サービスセンター
 ☎0762(22)0501(代)
 〒920
 金沢市尾張町2丁目8番23号
 太陽生命ビル6階



大阪サービスセンター
 ☎06(271)7996(代) (修理受付)
 〒542
 大阪市南区南船場1丁目17番9号
 ペンタックスフォーラム・大阪
 (ショールーム・写真展)
 ☎06(271)3960



広島サービスセンター
 ☎082(248)4321(代)
 〒730
 広島市中区中町8番12号
 広島グリーンビル2階

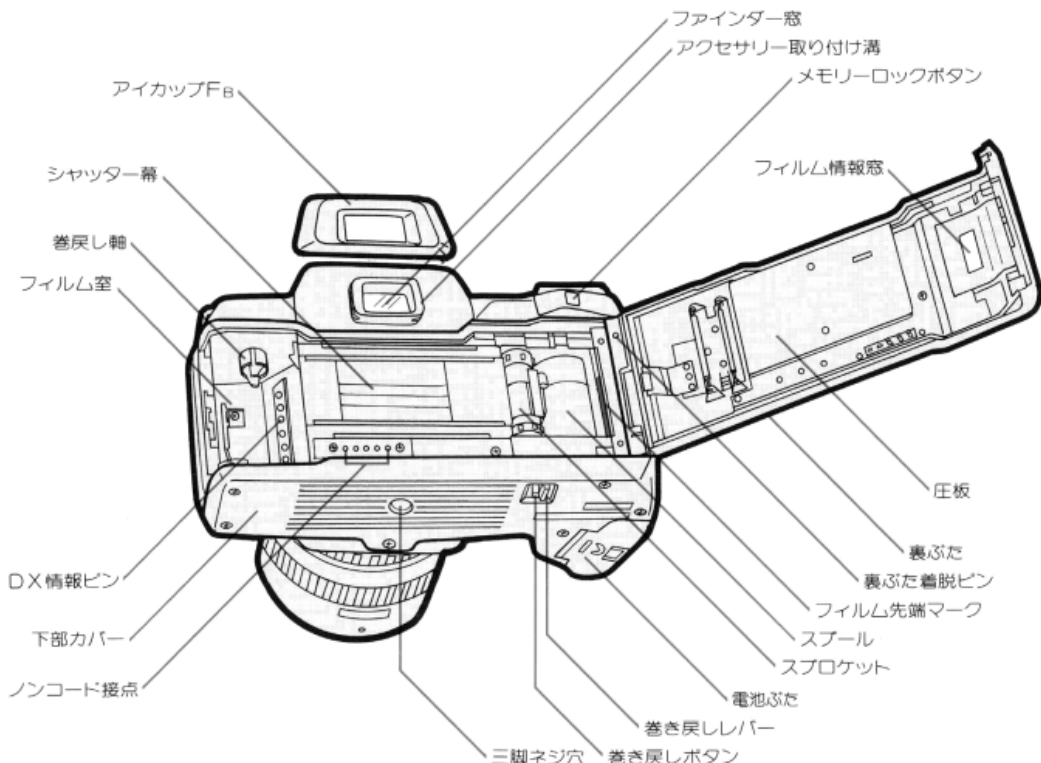


福岡サービスセンター
 ☎092(281)6868(代)
 〒810
 福岡市博多区中洲中島町3番8号



ペンタックスギャラリー
 (カメラ博物館)
 ☎03(401)2186
ファミリー (写真クラブ)
 ☎03(401)2187
 〒106
 東京都港区西麻布3丁目21番20号

各部の名称【クォーツデパートの名称は58ページをご覧ください。】



- 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
 - 他社製品〔レンズ、アクセサリ等〕との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口
に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に
耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお
送りください。なお、不良見本のフィルムや
プリント、また、故障内容は正確にメモして
添付していただくと原因分析に役立ちます。
 2. 保証期間中〔ご購入後 1 年間〕は保証書〔販売
店印、および購入年月日が記入されているも
の〕をご提示ください。保証書がないと、保証
期間中でも修理が有料になります。なお、販
売店または当社サービス窓口へお届けいただ
く諸費用は、お客様にご負担願います。
 3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。
なお運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
 4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後、
10年間を目安に保有しております。したがっ
て本期間中は原則として修理をお受け致しま
す。なお、期間以後であっても、修理可能の
場合もありますから、当社の各サービス窓口
にお問い合わせください。
 5. 外国旅行をされる場合、各サービス窓口では
お手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発
行致します。〔保証期間中のみ有効〕なお、
特定の旅行先でのサービス窓口の住所につい
ては、お問い合わせください。

● 75



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町 2 丁目 36 番 9 号 ☎ 03(960)5151(代)

旭光学商事株式会社

〒100 東京都千代田区永田町 1 丁目 11 番 1 号 ☎ 03(580)2051(代)